

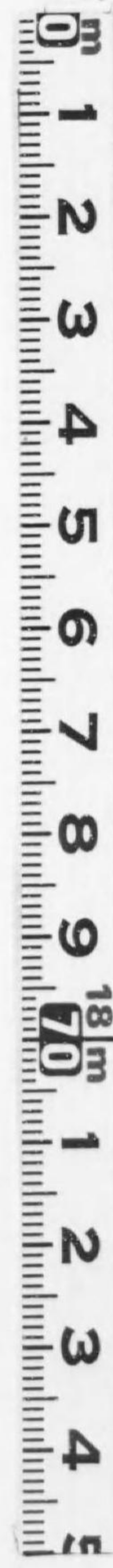
特 116  
341

布發法合組業產

念記年周五十二

# 集 演 講

會 央 中 合 組 業 產



# 始



産業組合法發布  
二十五周年記念 講演集

目次

開會の辭……………産業組合中央會主事 千石興太郎

産業組合の精神……………産業組合中央會々頭 志村源太郎

普選後の新社會に於ける産業組合の使命……………東京帝國大學教授 農學博士 那須皓

産業組合界に於ける金融問題……………産業組合中央金庫理事 三輪龍揚

本邦産業組合運動の回顧……………東京帝國大學教授 農學博士 佐藤寛次

次の二十五年……………前貴族院書記官長 法學士 柳田國男

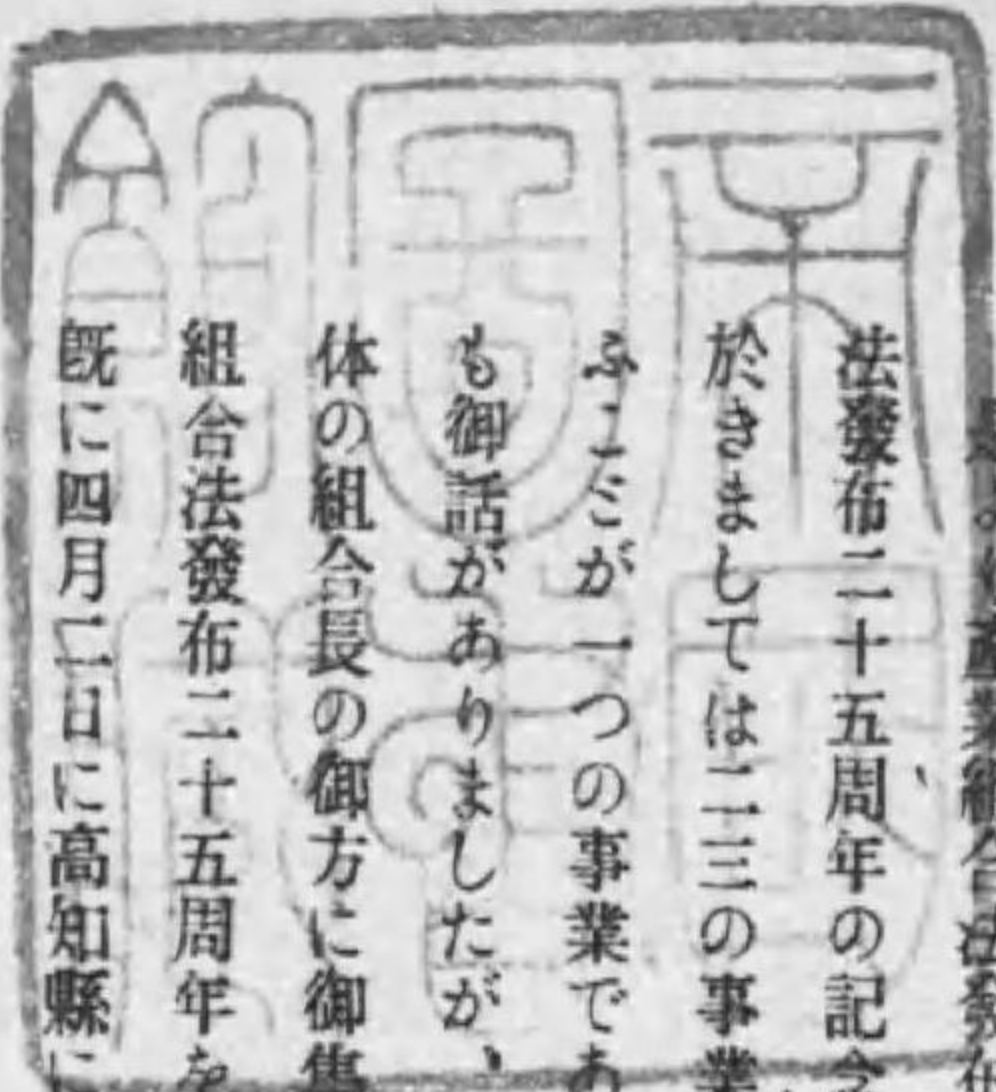
閉會の辭……………産業組合中央會々頭 志村源太郎

開會の辭

産業組合中央會主事 千石興太郎

大正 14. 7. 16 内交

116  
341



是より産業組合法發布二十五周年の記念講演會を開會いたします。此の講演會は産業組合中央會に於きまして産業組  
法發布二十五周年の記念事業の一つとして計畫いたしました事業であります。今年の二十五周年を記念する爲に中央會  
於きましては二三の事業を計畫いたしましたのであります。府縣に於きまして其の府縣の産業組合長の協議會を開くこと  
もまた一つの事業でありまして、是は中央會に致しましては最も重きを置いて居る所の事業であります。先刻會頭から  
も御話がありました。産業組合の振興刷新に關する要項を云ふものを作りましてこれに依つて各府縣毎に其の府縣の全  
体の組合長の御方に御集まりを願ひまして其の振興刷新に關する要項に依つて御協議を御願ひする考へであります。要は  
組合法發布二十五周年を機として更に産業組合の今後の活動に付て一新生面を開かんとするのであります。此の協議會は  
既に四月二日に高知縣に初めて開催いたしました。今後引き続き本年中に全國各府縣に於て開催する積りであります。

次に産業組合の宣傳用の活動寫眞のフィルム懸賞募集を致しました。是は唯今左子主事から御報告になりました今晚  
活動寫眞をやるに云ふ中の一二のフィルムは其の懸賞募集に依つて中央會の方に於きまして撰抜いたしました所のもの  
フィルムとして作成したものであります。

又産業組合史の發行を本年致す積りであります。是は此の編纂が出来ましたならば直ちに印刷に付しまして發行を致し  
ますから各組合に於かれてそれを御講讀になるやうに希望を致します。又本會で發行いたして居る所の雑誌「産業組合」

講演集

は其の記念號を九月の一日に發行する積りであります。更に又通俗雜誌を致しまして「産業組合」の姉妹雜誌として「家の光」を發行することに致しましたのであります。それは五月一日を以て創刊號を出すことになつて居ります。是は今日諸君の方に差上げたのでありますが、今後益々内容を改善致しまして、全國の組合員三百餘萬の家庭に於て御講讀になるやうに御願ひしたいのであります。此の雜誌に依りまして極く通俗平易に共存同榮の精神を宣傳し、之に依つて益々組合の活動を計りたい。尙ほ同時に一般の産業、經濟、教育其の他諸般の方面に向つての實際的知識を組合員の家庭に與へたいこと云ふ目的であります。

而して以上申上げましたやうな記念事業は全國の組合員の方々を集めて行ひ得る所の事業ではないのであります。さうしても此の記念事業の一つに致しましては全國組合員の方々が御集りになつた席に於て行ひたいこと云ふ考への下に此の記念講演會を開くことになりましたのであります。此の記念講演會は本日と明日とに亘りまして、本日は是から、明日は午後一時より此の席に於て開會することになつて居るのであります。今日は志村會頭及び東京帝國大學農學部教授の那須農學博士、此二人の御講演があります。明日は午後一時より産業組合中央金庫の理事三輪龍揚君、それから柳田國男君此の方は産業組合法制定及び其常事産業組合に付て淺からざる關係のあつた方であります。前の貴族院の書記官長、現在は大阪朝日新聞に關係を持つて御出になる方であります。終りに佐藤寛次君、是は諸君御馴染の東京帝國大學農學部教授又中央會の參事であります。明日は此の三人の方の御講演があります。さうか此の講演會は盛會に終りまするやうに諸君の御清聴を希望いたします。

## 産業組合の精神

産業組合中央會會頭 志村源太郎

此の演壇に登るに付きましては私は感慨無量なるものがあります。二十五周年の記念講演の際には平田伯爵は自ら出席せられて諸君に對して一場の講演をせられんとして居つたのであります。然るに事志違はれて溘焉として逝かれたのであります。私は他の諸先生に御譲りして敢えて講演の壇上に立つ積りはなかつたのであります。伯爵の病篤きが爲め、又此度御逝去になりましたやうな事情の爲に此の演壇に立つことに相成りましたのであります。演題も聊か前會頭伯爵の志を推察いたしましたして掲げた次第であります。御承知の通り伯爵が産業組合のことに付て全國を周遊せられ、各地に於て演説談話せられた事柄は産業組合の精神を全國に普及せんことを努められたのであります。勿論産業組合の成立は希望する所であるが其の精神の普及を以て我が帝國の思想及び其の思想より現はれる所の實際生活の結果の上に良いものを得たいこと云ふ御精神から出られて、専ら産業組合のこゝを宣傳せられた記憶して居ります。産業組合は此の二十五年の間に前刻大會の席上に於て申述べましたやうな計數上の發達は致したのであります。さりながら其の實際の精神を云ふ事に付てはまだまだ十分に行き届いて居らぬを考へて居るのであります。若し平田伯爵が期さる如く此の壇上に立たれたならば必ず其の事柄に付て言葉を重ねられたであらうと思ふのであります。依て少くも演壇に於て其のこゝを申したいと希望するの餘り私は「産業組合の精神」を演題を掲げたのであります。

諸君、此の産業組合を云ふものは我々も申述べ、諸君も經營して居られるのであるが、抑も如何なるものであるか。法

律上に於ては國民の産業及び經濟の發達を計るを目的とする結合である。斯う云ふことが法律には書いてあります。是は目的である。實際はさう云ふものであるか云へば之を學問上に分析したならば大變むつかしいものでありませう。併し我々が普通に解釋する所に依れば少くも此の産業組合なるものは之に加入するに加入しないは自由である。自由の集まりである。又之に加入した人が自分の營業をするなり、行動をするなり自由である。自由を基礎とした所の集まりである。決して同業組合に若くは農會に云ふやうに加入を強制するものではないのであります。個人の心から發して成立つものであります。此の點は他の有力なる團體に違ふ處の第一點であります。次に違ふ所は、此の産業組合なるものは平等の觀念に依つて成立つたものであります。組合員は貧富を問はず大小を問はず皆平等の立場に居るのであります。一口を持つ人も五十口を持つ人も同じ權利であります。決して他の株式會社の如く五十株持つ人は五十票の權利を有し、一人の人は一票しか有しない云ふやうな差別的の權利關係ではない。矢張り同じやうに一票の權利の上に立つて居るものであります。自由の結合であつて、平等の觀念に成立つたものである。而して共同の計算に依つて互に結合をして或る經濟的の事業をなさうとするものであります。即ち信用事業、購買事業、販賣事業、悉く經濟的の事業——少しくむつかしい言葉を以つて云へば經濟的の企業にでも云いますが、共同の計算で自由平等の立場に立つて或る事業をしてゆく而してその事業の力は何であるかその力は組合員處個人の力の上に尙共同の力を加へようその人々の力をも少し大にする爲めには斯様な結合をしようとして共同の計算で或る事業をしよう、斯う云ふものが産業組合であると思ふのであります。然らば此の産業組合なるものは根本は自由平等であつて、之を維持するには結合、共同に云ふものが之を結び付けて居る、自由平等の觀念が之を結び付けて居る。共同の精神、共同の計算が之を結び付けて居る。さうして其の力を以て之を組織して居る路々個人の力を増して行つて、社會の強い者或は大資本を擁する人も對等の立場に立つだけの力を作つて行く、斯う云ふ組織であるに私は理解して居るのであります。それ故に此の産業組合に従事する者も致しましても路々の自

由を保つと共に十分に自由に自分の營業をなし、自由に自分の行動をなし出来るだけの活動をなすと同時に共同の觀念を以て産業組合の事業をなすに必要であると思ふのであります。他の言葉を以て云へば自由平等及び博愛の觀念ではないか。共同の觀念共同の計算に云ふものは此の博愛の觀念に基いて居る居らなければならぬ。産業組合に於て利己的の觀念を持つて居つては結合する所の精神がなくなつて仕舞ふのであります。先刻申しました共存同榮の精神、是は矢張り博愛から出來て居る。昔の言葉で言へば仁義の觀念である博愛之を仁に云ふ。又信義の觀念、之も矢張り共同の觀念であります。自分一人の利害を計らずして他の人の利益を顧みる、寧ろそれを助ける、自分に少しの餘裕があれば之を以て他を助けて行く、此の觀念に立脚して、所謂仁義に云ふことを前提として説かれたのであります。此の觀念に立脚して之を経濟上の實際に具體的に現はしたものが産業組合なるものである。故に産業組合の主唱者が一番初めに唱へたものは何處の國でも皆道德觀念から生れたものである。或は耶蘇教の道德觀念から生れたものであります。或は社會の經濟組織の變化の上からして大なる資本家に對し、又物價の騰貴其他の經濟上の變遷に對し中産階級の立場を維持しやう、小さい労働者の生活を維持し向上せしめやう云ふ所の高尙なる觀念から生れて居るのであります。故に此の産業組合の精神に云ふものは決して利己的若くは他の方から助けを受けるに云ふやうな觀念であつてはならぬのであります。是は申迄もないことではありますが、動もするに産業組合に云ふものの實効を擧ぐることに走るが爲に根本を忘れたり或は成績を擧げよう云ふ爲めに他の營利會社と同じやうに組合の利益を得ることを専らに致しまして、さうして株式會社と同じやうな立場に立つて見たり、或は又組合員から信頼を受ける爲に知らず識らずの間に組合の資金を或は自分で使ひ、若くは自分の友人に餘計使はせるに云ふやうなことになる弊が動もするに於てあります。是等は成績を擧げんが爲に却つて其の根本を忘れるの弊に陥るものであります。組合が段々盛になればなる程此ことは最もよく注意しなければならぬを考へるのであります。若し株式會社若くは他の營利會社の眼を以て産業組合を批評したならば實に微々たるものであります。少くも其の

區域は僅か一町一村を以て區域とする所のものであります。小さなものであります。こんな小さなものに諸君が従事せられる云ふことは詰らぬことである。唯僅の五萬か十萬の資金を以て會社を取扱はうとしたならば諸君の力は十分に餘りあるであります。それよりは五十萬、百萬の營利會社を經營なさる方が宜しからうと思ふのであります。併しながら産業組合の期する所は左様のものではないのであります。左様な計數上の問題ではない、寧ろ精神的に其の一村内の同胞の地位を改良し、其の生活を安定し、それを向上して行かう云ふ所の機關である。其の機關を運用しやう云ふのであります。先刻の實驗談にもありました。信用事業を行ふて十分に進んで更に畑の耕地整理をやらう、若くは圃を改良しやう云ふやうに、一村内の各種の事業に眼を着けて、唯信用事業のみではない、唯購買販賣の事業のみではない、村落の改良、村の經濟的發展云ふやうな總ての方面に眼を着けたならば色々なことが各種の方面に起つて来る。各種の事業を共同してやつて行くことが出来る。茲に於て其の使命は誠に重大であると思へるのであります。而して之を結び付ける所の考へは皆博愛の觀念に基いて居るのでありますから組合員全体が共同し、一面に於ては自由の立場に立つて平等の觀念、博愛の精神を以て之を結び付けた所の一の團體に過ぎない。而して是が經濟的に働くとしたならば其の村落其の組合云ふものは實に偉大なる國家になると思ふのであります。其の國家の偉大を成す所の本を作る産業組合の經營としたならば是は重大なる、有意義なる使命を持つて居るものと思はざるのであります。

段々地方の制度も改良せられて參りました。今日の有識者の考へる所では從來我國の制度は中央集權に失して居る。經濟上の威力も中央に集まり過ぎて居る。もう少し地方に分散しなければ國家の發達は十分に期せられぬ云ふことは一般の輿論云つても宜いのであります。是からは租税の制度にしても其他の制度にしても段々地方分權的に改廢されることと思は思ひます。地方にももう少し財源を得なければならぬ。唯國稅の附加を以て地方の財源を得るより外に途がないといふやうな租税の組立は甚だ不完全なものである。もう少し各市町村に獨立の財源を持つ云ふやうにしなければならぬ。

まい。斯う云ふことが財政家の論であります。今後は段々左様な形勢に移るものと思はざるのであります。さうしなければ我が國家の進歩云ふものは餘程遅々たるものになるだらうと思ひます。現に租税制度は別としても郡制が廢せられ、郡役所が廢せられた結果として縣と町村とが密接することになりました。然らば町村の任務は更に大なるものになったのであります。今後は町村が從來よりも一層意義のあるものにならなければ此の地方の制度云ふものは完全なものにならぬと思ふのであります。而して町村が尙ほ一層發達するのにはさうしたら宜いのであるか、是は町村の産業云ふものを發達せしめるより外はない。今日の世界に於て政治上の原動力は何であるか云へば皆經濟である。各國が國際條約を結び、色々な行動をする。其の本は何であるか云へば經濟上の必要から來て居るのである。國でさへもさうである町村が其の町村たるの機能を充分に發揮しやうとするには先づ其の内容を充實し、其の經濟を發達させなければならぬ。其の經濟を發達せしむる途は何であるか云へば町村内に於て産業組合が活動して共同的に各個人が自由に働く、平等の觀念を以て共同的に働く云ふことが即ち町村の發達の實を擧げる一番有力なる方法である。又御承知の通り普通選舉法が通過しまして、何年かの後には其の實行を見んごするのであります。全國二十五歳以上の年齢の者は僅の取除けの外は皆選舉權を有し、即ち間接に政治に參與する權利を持つのであります。單純に投票權を持つた云つて喜んだ處でしかたのないことでもあります。自分の思ふ所を行はすべき候補者を選挙して初めて選舉權獲得の實効は擧るのであります。唯選舉權を得た云つても何にもならぬ。詰らぬ人を選挙すればするだけ國家に對して忠なるものではないと思ふ。本當に意義のある選舉を致さうとするのには選舉權者其人が矢張り政治上の知識、政治上の判斷力を持たなければならぬ。若くは進んで自ら政治を運用し得べき所の技倆を備へて居つて欲しいと思ふのであります。町村に於て經濟的の行動を致し、經驗を持つ云ふことは何であるか、産業組合の經營云ふものは其の性質に於て國政の經營と大した違ひはない、大小の違ひがあるだけである。一國の政治を料理するも、産業組合を巧みに經營するも大した違ひはない。問題は違ひますけれ

さも性質上に於ては少しも違ひがない。唯國家の事は問題が色々錯雜するだけの話である。町村に於ては更に細かい問題が起る。大小の違ひはあり、廣狹の違ひはあるかも知れませぬが、多數の人を率ひ、與へられたる土地に於ける隆盛を計り、事効を擧げて行かう云ふことの性質に大した違ひはない。諸君が産業組合を經營するこゝは即ち國政料理の階段であります。各國の國政云ふものは先刻も申しました通り主に經濟行政——經濟に立脚したる行政である。國民の實生活を本とし又それに觸れた所の政治である。それは即ち産業組合の經營に大した違ひはない。此の組合の經營云ふこゝに充分の經驗を持つ云ふこゝに、組合員をして其の經驗を持たしむる云ふこゝに、組合の經營に参加せしむる云ふこゝに即ち普通選舉を有効ならしめ、其の實績を大ならしむる所以であるこゝは考へるのであります。斯様な時勢の變化の場合に出會ひまして産業組合云ふものは愈々其の必要を増して來るのであります。さうか産業組合に従事せらるゝ諸君、産業組合なるものは唯利益を追ふ所の團體ではない、其の以上に道德的使命の大なるものである云ふこゝを十分に組合員に知らしめて、さうして組合をして意義ある所の團體たらしめんこゝを希望いたします。

付加へて申しますが産業組合云ふものが他の株式會社等の團體に違ふ所の又一つの特徴があります。それは此の産業組合云ふ有力なる機關を最も利用する者は誰であるか云ふこゝ大株主でも何でもありません。之を最も多く利用する人は即ち其の組合の事業を自ら利用する人である。他の株式會社であります大株主が最も利益を受けるのであります。産業組合は持口に制限がある、平等であります。仍て誰が之に依つて利益を受けるか云へば組合の仕事を利用する人が利益を受ける。購買組合ならば其處から餘計品物を買ふ人である信用組合ならば其處へ金を預け若くは其處から借りる人である。最もよく其の組合を利用する人が即ち此の機關の利益を受ける人であります。それでありまして、それから唯組合を作つたばかりで我が村には大なる組合がある云つて満足するは進んで産業組合の効果を擧げない人であり、又産業組合の運用を知らぬ人であります。一口でも組合に加入して大に其の産業組合を使へば即ち其の組合に貢獻する人であり、又其産業組

合の力を大に利用する人であります。是が大變他の組織に違ふ所であります。故に引つくるめて申しますれば産業組合なるものは自由の人の集まり、平等の立場に立つて、共同博愛の精神を以て之を結び付けて、さうして組合員の働きの力、共同の力を加へて行く。而し其の機關は之を利用する人が最も利益を受けるものであります。斯様に産業組合を考へて少しも間違はないと思ふのであります。

此の産業組合の精神は何處までも左様な組立でありますから共存同榮云ふ精神に歸着するのであります。此の精神に立脚して初めて此の事業に従事する人が本當に有意義に、新時代の事業として働くこゝが出来ると思ふのであります。私には此の點に向つて諸君が十分組合員に向つて理解を御與へ下さいまして、さうして益々産業組合の盛大ならんこゝを希望するのであります。是蓋し前會頭の心から希望せられて居つたこゝに信するのであります。

## 普選後の新社會に於ける産業組合の使命

東京帝國大學教授  
農學博士 那 須 皓

私は此處に掲げました「普選後の新社會に於ける産業組合の使命」を云ふ演題の下に暫く御清聴を煩はしたいと考へます。諸君、今日の日本社會は何となく一種のあはただしさを漲らして居るのであります。各人が落ち付かない心持で生活して居る。多くの人々は古き傳説に新しい思想との間に彷徨して適從する所を知らない状態に在る。何物かの來るのを望むやうな、又同時に之を恐れるやうな一種の氣分であります。此の今日の時勢を最もよく現はしたものは今日の第五十議會であつたと思ふのであります。第五十議會に於きましては各位の御承知の通り普通選舉法と治安維持法とを通過せしめたのであります。普通選舉法は貴族院側の修正に依りまして稍いびつな形で誕生いたしましたのでありますけれども、併し之に依つて兎も角も在來の三百萬の有権者は一躍千二三百萬に殖えたこと云ふ所の大改革であつたのであります。單に數の増加ばかりではない。寧ろ注意すべき點は在來の納稅資格を云ふものを撤發した點にあるのであります。勿論「公私の救助を受くる者又は扶助を受くる者」と云ふやうな若干の制限は附け加へられて居るのではありますけれども、此の制限は已むを得ざる妥協の結果であるのでありまして、改正法の主眼ではないのであります。故に政府當局は出來得る限り狭い意味に之を解釋しやうと努めて居られるやうでありまして、財産上の資格制限は在來の選舉法に較べますと甚だ輕くなつて居るのであります。先づ普通の成年男子でありましたならば極く僅かな例外を除きまして殆ど漏れなく參政權を得るに至つたこと云つて宜しいのであります。

此の選舉法の改正の結果と致しまして當然一般多數民衆の力が議會に伸びて來るに相違ないのであります。在來の議員

は多く有産階級の利益代表たる感があつたのであります。今後は國民の大部分を占めて居る所の無産者階級或は極めて僅なる財産を持つて居る少産階級を云ふ人々の代表者を漸次議會に選舉して來ると云ふことは疑ひを容れない。否、今後を待つ迄もなく今に於きまして既に各政黨の主なる人々は今回殖えた所の此の所有権者の投票を今後に得んが爲に非常なる苦心をして争つて看板の塗替に從事して居ると云ふ始末であります。而も茲に一つ面白いことは各政黨の幹部諸君が如何に所有権者を指導すべきか、如何なる考慮を以て是等の人々を誘ふべきか云ふことに今日迷つて居る事實であります。現に有力なる政治家が一人ならずも普通選舉法は通過したが是に對する準備はまだ出來て居ないと云ふことを明言して居るのであります。是は反面に於きまして今迄の政黨と云ふものが、或は政治家を云ふものが如何に無産階級の立場を考慮するに於て缺けて居つたか、有産階級の利益を考へることが取りも直さず國民民福を考へることであること云ふ誤解を持つて居たかと云ふことを證明するものである。勞働保險であるとか、或は勞働組合法、小作法を云ふやうなものは今日未だ制定せられて居らない。又屢々惡法であると非議せられて居る所の治安警察法第十七條の如きものが其の儘存續せられて居ると云ふことは其の活きた證據を示して居るのであります。是等の政治家は民衆を指導する前に先づ自ら指導せられなければならぬ所の立場にあるのであります。彼等が今や五里霧中に迷ふ所の觀あるのは宜へなりと謂つべきであります。然るに一方普通選舉法を並んで議會を通過いたしましたのは治安維持法であります。是はさうであるか云ふと色々の強辯に依つて説明せられて居るに拘らず結局に於ては私は資本家擁護の法律であることを見て居る。此の法には國體を擁護すること云ふ一條が加はつては居りますけれども、我が日本の國體は之を擁護する爲に特に此の法律を必要とする程脆弱なるものではない。今日又斯の知き危殆の状態に陥つて居るとは私は信じない。さうであります。故に此の法律の主眼とする所は私有財産制度の擁護それ自身にあるのであります。而して政府當局は土地國有であるとか、電力の國營であるとか云ふやうな部分的の事柄に付ては此の法律では取締らないものであること云ふ説明をなされては居るのでありますけれども

も、どうも其の説明が曖昧でありまして、十分我々を納得させては呉れないのであります。又假りに是等の點に政府當局の誠意の認むべきものがあり、致しました所が既に屢々論ぜられて居る如く行政官の意見は何等司法官を拘束するものでないに致しましたならば此の政府當局の説明は結局何の役にも立たないものである。殊に内閣でも更りますれば次の時代の行政官が如何なる異つた解釋を下すかも知れない。我が志村會頭は貴族院に於きまして産業組合が共同經營する時に此の法規に觸れるものであるか、觸れないものであるか云ふ御質問をなされて、決して觸れるものでないと云ふ返答を得られた。私は記憶して居ります。さりながら此の點に付きましては將來の司法官がどう云ふ間違つた解釋を下さないとも限らないのであります。後に申上げます通りに我が産業組合と云ふものは何等此の法律に依つて取締をせらるべきやうな性質は持つて居らぬのであります。何時なんどき没常識な誤解の下に無茶な取扱を受けないとも限らないのであります。故に志村會頭が貴族院に於て此の點に駄目を押されて、十分に産業組合なるものの性質を明かにせられた。云ふことは甚だ私は周到なる御用意であつと拜見いたしましたのであります。私共は決して私有財産制度を全部撤廢しやうと云ふやうなことを主張するものではなく、又産組合は決して同様なことを主張するものではないのであります。併しながら私有財産制度の運用上に於て部分的に改廢を加へる必要があると云ふことを認めて居る今日の私有財産制度の運用上に於きましては甚だ遺憾とする點が多い。云ふことを我々は認めて居るのであります。而して此の運用上に於きまして種々の改訂を加へる。云ふことは是は社會の大眾を意味して居る所の無産階級の利益幸福を増進する上に於て大なる意義のあるものであると云ふことを信ずるのであります。斯の如く合理的なる、部分的なる所の改革は決して此の治安維持法の取締る所ではない筈のものではありません。又さう云ふ立案者の意見ではありませんけれども、併しながら此の法律の濫用或は誤用を招くかも知れない。云ふことは、斯の如き合理的運動の前途にすら何となく一種の不安、面白からざる所の影響を與へるものではないか云ふ風に私は考へるのであります。

茲に於きまして甚だ面白き一つの結論が下されるのであります。何であるか。今回の第五十議會は政治的には無産階級の立場を認めて其の權利を大に増大したるものがあるにも拘らず、現代政治の中樞をなす所の經濟運動に付きましては寧ろ彼等を束縛したる所のものである。政治的には國民大多數の能力を信じて居りながら而も此の能力の實際行使の上に於きましては甚だ疑念を持つて居るものである。一面に於て一般民衆を信じ、他の半面に於て一般民衆を疑つて居るものである。斯の如き一種の面白き結論が下されるのであります。

普通選挙法と治安維持法と、此の精神に於て相容れない所の二つの法律が今日の議會を通過した。云ふことは何よりも雄辯に今日の時代を物語つて居るものであります。即ち先に述べました新しい時代を迎える所の歩みと、来るものを恐れる所の心を並べ現はして居るのであります。而して準備未だ完からざる政黨、否、普通選挙後に於きましては所謂地盤の崩壊と云ふことを恐れる所の政黨が卒先して此の普通選挙を唱へざるを得ざるに至り、彼の保守的、目されて居る所の政治家達まで眞つ甲から之に異議を唱へることが出来なくなつたと云ふ所に我々は時勢の進運を認めることが出来るのであります。誠に黙々として時代は動いて行く。恰も必然の運命に似たやうな力強さを以てそれは動いて行く。種子が芽を出すやうに、又、樹木が轟々成長して行くやうに、一種の抵抗すべからざる所の力を以て新時代は我々の前に迫つて來るのである。而して恰も個人の一生涯に於きまして飛躍の時期がありますやうに國民全體に取りましては一大飛躍の時期。云ふものは往々にして來るのであります。又判然たる前途の見込が付かないのにも拘らず、まだ之に對する所の準備が十分完からざるにも拘らず或る力——我々は之を歴史の發展力でも申しませうか、或は民族的精神と呼びませうか、新しき此の大きな力は國民の運命を推進して局面を轉回せしむるのであります。我國の歴史に於て斯の如き一大轉回の時期を數へますならば其の第一は聖德太子の大化の改新であり、其の第二は明治の維新であつたと思ふ。而して今や大正の維新が其の第三のものとして我々の眼前に來りつゝあるのを感じるのであります。正に是は山雨來らんとして風樓に滿つ



ると云ふ概があるのであります。我々は來らんとする何物かを豫想して一種悽愴の感じを抱くのであります。現代社會に落付きがないと私が先に申し上げましたところは各人が斯の如き一種の心持を竊かに抱いて居るからであります。

翻つて想ふに斯の如き一種の不安の念慮は抑々何處から發生して來るのであるか。それは或る意味に於ては資本主義の文明が爛熟期に這入つたが爲にそれより發する所の一種の臭ひであると思ふことも出来ませう。又或る意味に於ては我々の生活が餘りに都會に集中して田舎を離れること云ふことに基つて一種の悪影響であるとも見做すことが出来ませう。或は又自然科学的、機械的の文明の急激なる進歩と云ふものに我々の精神的、道德的進歩が追従して行くことが出来ない爲に近代人間の生活が二元的に分裂し人格の統一云ふものがなくなつて來た其の結果であると説明を下すことも出来るのであります。殊に宗教云ふものが昔持つて居たやうな權威を失つたこと云ふことも大なる原因の一つには相違ないのであります。誠に近代人の精神を支配するものは神にあらずして合理主義と功利主義であります。南無阿彌陀佛の權威とか羅馬法皇の無謬説云ふやうな信念に代つたものは進化論と科學の尊信であります。今私は是等の點に付きまして詳しく御話をする目的も時間も固より持つて居らない。併しながら我々の思想感情を形成する所の基礎的事實を見たる所の經濟及び我々の社會生活の規範である所の政治、此の政治と經濟と二つのものの上に於て存して居ります所の缺陷が現代社會の不安を形作る上に於て著しき役割を勤めて居ると云ふことは是は何人も否定すべからざる事實であると思ふのであります。經濟生活に於ける所の不合理と困難とは多くの人々を懷疑的、絶望的の氣分に導き、又政治生活に於ける不合理と不正義とは多くの人々を反抗的氣分に導くのであります。此の絶望的氣分、反抗的氣分の二つのものが並び存する時に社會は陰鬱なる黒雲に蔽はれる。其の黒雲を排して晴朗なる天日を仰がしむること云ふことは、是は民衆と共に生くる所の政治家——支那の所謂民に先立つて憂ひ民に後れて樂しむこと云ふ政治家の公明正大而も正義を踏んで恐れない所の努力に待つことが頗る多いのであります。さりながら單に少數の政治家のみの努力に依つて此のことは決して期待し得べき

ものではない。如何に大なる政治家が生まれ出た所が國民全體が眞に覺醒して發奮努力するにあらずんば此のことは到底可能なのであります。一人の天才が一つの時代を造つたこと云ふのはもう既に昔のことでありまして。今日は民衆自身が時代を造らなければならぬのである。偉大なる天才云ふ者は此民衆の隠れたる所の希望の表現者として民衆の思想感情を結晶せしめたるものとして現はれた所に於て初めて意義があるのであります。一般の國民が盲目的に唯一に政府當局者に信頼して其の後に従ふことのみ依つて國力を揚げんことを考ふるやうな態度を採りましたならば是は必ずや官僚主義或は保護主義を生み、また民衆の側から見れば他力本願主義云ふものを發達せしむるのであります。此間に多大の弊害を生ずるのであります。昔或る哲學者が申しました通り一切の事物はそれ自身の存在を繼續せしむること云ふことを第一義とするものである故に政府當局に斯の如き絶大の權限を與へましたならば政府當局は此の絶大の權限を握れる所の政府自身の存續云ふことを先づ第一に考へて、其の爲に種々の弊害を生ずるに相違ないのであります。斯の如く考へましたならば今日の政治に於て、或は經濟に於て存在して居る所の種々の缺陷と云ふものは是は寧ろ民衆自身が之を除去すると言ふことに努めなければならぬといふことは言はずして明かなのであります。

私は茲に少しく眼を轉じまして我國の國民經濟の困難なる點に言及して見たいと思ふのであります。我國の經濟の困難は根本に於きまして人口の多い割合に富が乏しい、而して産業が發達して居らないと云ふことに基いて居るのであります。今暫く農工商に付て概観いたして見ますならば、我國の農は世界に稀れなる程集約のものであります。其の技術も亦大に進歩いたして居るのであります。さりながら如何せん、餘りに小經營であります爲めに農家は之に依つて十分の收入を擧げることが出来ない。百姓は特別に低い生活程度にあることが當り前であるに強制せられ、又農民自身も是に甘じて居つた時代に於てはいさ知らず、今日に於きましては農業者も人間並の生活を要求するものである。而して此の要求を充さんが爲には平均一戸一町一反歩を耕作するに過ぎない所の日本の農業云ふものは餘りに小經營なものであります。

す。いかにも農業の學問が進歩したならば土地收獲漸減の法則と云ふものゝ作用を及ぼす限界は動いて行くものではあります。然も結局に於きまして進歩せる所の農業は常に其の法則の支配の下に立たざるを得ない。さればこゝで農産物の價格、例へば米の値段を無暗に高くせしめる云ふことは是は國民全體の生活費を高めることでありまして、其の結果は商工業の發達を害する。又延いては廻り廻つて農業自身にも禍を齎らすものであります。國民經濟全體の健全なる發展を害するやうな極端なる農産物の價格騰貴云ふことは國家の立場から考へましても、又農民階級の立場から考へましても之を避けなければならぬのであります。茲に我國農業の一番困難なる問題が横はつて居るのであります。

次に工業はどうであるかご申します。我國は重要な工業原料に乏しいのでありまして、鐵、石油其の他色々ものを多額に外國から輸入して居る。是は各位の御承知の通りであります。戰爭前に於きましては僅に勞資が低いと云ふことを取柄として外國と競争が出来たのでありますが、此の點も今日は最早頼み難い云ふ狀況に立到つて居る。而も一方に於きまして生産並に經營の組織に於て非常に大なる缺陷を持つて居る云ふことは我國に於ける最も重要な製造工業である所の生糸業の實情を見ても明かに解るのであります。加ふるに我が當業者には遺憾ながら遠大の見識がなく、眼前の小利に迷ふの弊害が多く、今回の戰等に際しまして折角我國の商品の販路を世界の市場に擴める所の好機會を得ながら粗製濫造の結果直ちに本邦品の聲價を落して仕舞つた云ふやうな有様であります。

然らば商業はどうであるか、農業、工業が發達せずして獨り商業だけが發達する云ふことは國を擧げて精取の立場に身を置くものであります。國民經濟の基礎は甚だしく不安に陥り、又之を以て國民全體に職業を與へる云ふことは覺えないのであります。國內に農業工業が存在して居りましても是等の農業工業が不振であつて、商業者のみが増加いたしましたならば結局日本に於て分配すべき所の財貨乏しくして而も分配の任に當る所の人間の頭數だけが增加する云ふことを意味しますが故に國民一人々々の財貨所得分云ふものは大に減少して來らざるを得ないのであります。云ひ換へまし

たならば國を擧げて貧乏になり國民の生活は貧弱ならざるを得ない。

近代の社會に於きましては實際の生産に従事する所の人間の數が割合に少く、一種の寄生的の生活を送るやうな人間が割合に多い。恰も是ローマ帝國滅亡前、或は佛國革命勃發前の模様に類似して居る云ふことを米國産業組合聯合會長のウォーアパツス氏が述べて居るのであります。誠に農業工業が發達せずして商業のみが若し盛となりましたならば其の國はウォーアパツス氏の心配して居るやうな方向に進みつゝあるといふことになるのであります。所謂番頭國になるのである。英吉利は商業を以つて發達した國であります。此の番頭國(Shop keeper's Country)たる英國に於ける商業的經濟學を嚆矢にして祖述して居ります所の多くの學者は商業も之れ生産の一種であること説きますけれども、我々は農業工業に於ける生産と商業に於ける生産とは其の意味が頗る異なるものであると認めない譯にはいけません。此の論は兎も角もご致しまして、我國の大都會に於て見るやうにあらゆる小賣商人の數ばかりが殖えて行く云ふことは我が國民經濟の前途に取つて決して喜ばしい現象と目する譯にはいかぬのであります。

我國は四面海を以て環らせる所の國である。農業、工業、商業に於て十分に伸び難い點があること致しましたならばそれは水産業、海運業云ふやうなものに於て補充したならばどんなものであらうか云ふ考へが直ちに湧いて來るのであります。是は誠に尤もなる考へであります。是等の方面に於きましては今後一層の努力をする必要はあるのでありますけれどもまだく、是等の點に於ても今日我々は満足が出来ない。水産業に付て見ましても漁村の經濟の如きは今日迄一向顧みられて居らないのであります。又海運業に付て見ましても戰時中の好景氣に於て非常に過大無法不謹慎なる配當を致しましたる船會社は今日に於ては優秀船問題で四苦八苦云ふ體裁であります。是等水産業なり、海運業なり云ふ方面に付て見ましても、其の組織或は其の經營に於て未だ吾人の意を強うせしむるに足るものが残念ながら見當らないのであります。以上を要するに我國は天然資源が豊かたなく、而して人間の組織的才幹が之を補ふだけにまだ傑出して居らない故に人

口が増殖するに伴つて我國の經濟生活が次第に困難になつて來るこいふことは是は理の當然であります。是に加ふるに日韓合併以來朝鮮開發の爲に注ぎ込んで居る所の費用も夥しいものであります。又最近には西比利亞出兵の如き數億の國帑を無用に費して居る上に更に一昨年の大震災云ふものは日本の經濟に一大打撃を與へたのであります。昔から貧すれば鈍する云ふことを申します。生活の困難はいらだつたる、あはたゞしき所の氣分を茲に醸し造るのであります。人多きが故に人の爲に無要の地位を作る。一人にて爲し得る仕事を何人もかゝつて分擔して居る。其爲には各人の能率は上らず徒らに事務費を膨脹せしめて居る。是は我國の官廳、銀行、會社に到る所見得る所の弊害であります。さうして又行政整理をする、事務の刷新をする云ふやうなこゝに由つて多くの人間を淘汰します云ふと又直ちに多數の失業者を生じて社會的空氣を險惡ならしめるのであります。是等の失業者に對して生活の途を保障するが爲に十分の恩給、年金云ふものを與へるに致しましたならばそれは取りも直さず其社會に對して寄生的從食の人の數を増加することになるのであります。其の國民の經濟的活動力は又弱まるのであります。然らば此のあり餘る人間が外に出で働く途はないか見ますると我が過剩人口の海外發達の途と云ふものは多くは塞がつて居るのであります。最も手近な、最も進み易い所の滿洲、朝鮮方面の移殖民に致しましても、抄々しく行つて居らぬ。南米移民の如きもなか／＼思ふやうにはいかぬやうであります。斯の如く我國の經濟的發達と云ふものは今や非常に難境にあるのであります。經濟生活が不安困難であれば同時に國民思想が漸く不安を増し、動搖を加へる云ふことも是亦已むを得ざることであります。今や我國は外五大國たる所の地位面目を維持するに苦しみ、内は動もすれば兄弟隣に鬩ぎ、禍穢障の中に起らんとして居るのであります。最近東京市に於て頻々として起る所の暴力團體の横行の如きは事は一些事たりし雖も亦一葉落ちて天下の秋を告ぐるものではないかこの懸念を抱かしむるのであります。内憂外患交々至ることは正に我國の現狀を喝破したる言葉であると思ひます。

諸君、併しながら私は徒らに日本の前途を悲感するものではないのであります。我國は天然資源に乏しいことは云へ、富

を生産するに於て最も必要なる、最も根本的の要素たる勞力云ふものには富んで居るのである。問題は此の勞力の活用如何にあるのであります。昔の言葉に天の時は地の利に若かず、地の利は人の和に若かず云ふことがあります。人の和を得る時に於ては地の利のないのは之れを補ひ得るものであります。彼の丁棟が不毛の地を美しき森林に化し、獨逸が砂土から立派な沃圃を作り出したやうに、努力は砂を化して黄金とする魔力を持つて居るものである。況んや極東に位し、亞細亞、亞米利加の要路に當つて而も近く東亞の大市場を控へたる日本の地理的地位と云ふものは我々の活動如何に依りましては甚だ重大なる意味を齎らすものがあるに於てをや。唯我々の憂ふる所は地の利にあらずして寧ろ人の和を得ざることを願ひない。又勞働者は勞せずして賃銀のみを多く得んことを之れ考へると云ふ氣風が尠からぬ。社會を擧げて唯利己的の衝動に驅られて狂奔して居る。彼の孟子の所謂上下交々利を征りて國危し云ふ状態、是が我々の最も憂ひとする所であります。而して此の間に於て國民指導の任に當つて居る所の政治家はどうであるか申しますれば、政黨政治の發達と共に昔の官僚主義の缺點は若干を之を除き得られたやうではありますけれども、之と同時に又黨利を以て國利よりも先に置いて、時としては國家全體の利益を犠牲に供して自己の屬する黨派の地盤の擴張を計る云ふやうなことを考へて居る政治家を數々見るのであります。自分の地位權勢を維持するのに便利なる限りに於ては或は資本家を結托し、或は勞働者に媚び、上下交々利を争ふ所の一人たるに過ぎざる徒が多いのであります。私が先に希望しましたやうな正を踏んで恐れざる氣概を持つて居る政治家は甚だないのであります。而して醇良にして忠實なる多數の官吏は斯の如き上官の命令の下に動かなければならぬ云ふ状態である。此の中央の政治家の態度云ふものは必然的に地方の政治家をも動かして來るのであります。地方の行政官も自分一身の事功を立つる云ふこゝに急でありまして、其の爲には前任者のしたことは如何に良いことであつても忽ち之を放擲して仕舞ふ。さうして地方民の幸福を増すやうな實質なる、永續的の施設を

實行する云ふ例は甚だ乏しいのであります。

私は斯ふ云ふ話を聞いたのであります。或る知事が十年後に再び自己の前任地に戻つて来た所が自分の劃策したことは悉く後任者に依つて覆されて仕舞つた。唯一つ残つて居つたものは何であるか云ふ自分の在任當時に造つた道路であつた。道路迄之を廢する譯に行かない。茲に於てか此の知事は翻然として大悟して曰く、知事として末代まで造る仕事をしやうと思へど道路を造るに限る。私は之を一つの笑話として聴き流す譯にはいかぬのであります。願ふに知事諸公は皆相當の見識より思慮ある所の人々であります。是等の人々をして斯の如き途に出でしめると云ふことは是は實に半面に於て今日の制度の罪であると思ひます。而も此の間に於きまして多大の國費、多大の縣費云ふものを不適當に浪費して仕舞はれる云ふことを考へますならば我々は茲に斯の如き弊風打破の途を求めざるを得ないのであります。又今述べましたやうな永續的にして且極めて實質的なる土木事業に付きましても必ずしも常に合理的に計畫せられない。所謂有力者等の情實關係に依つて不急の土木事業を起し、鐵道を妙に迂迴せしむる云ふやうなことが滿更嘘でもない致しましたならば尙更であります。私は此の大正の御代に於きまして彼の水戸黃門を蘇らして全國を漫遊せしめたく思ふのであります。私をして斯かる考へを抱かしむることは我國の政治家及び行政官の名譽ではないと思ふのであります。

更に近頃朝野に轟しき所の農村振興と云ふことに付きましても議會に於ける辯論の多くは地主階級の利益を計るに過ぎないのであります。植民地の統治云ふやうなことに付て見ましても非議すべき點が甚だ多いのであります。例へば最近に於ける朝鮮銀行の不始末の如き實に其の著しきものであります。私は朝鮮總督、政務總監と云ふやうな方々に對しては多大の敬意を持つて居るものでありますが、併しながら朝鮮地方に於ける所の利權屋の跋扈、無爲無能にして唯安全第一主義を念とする多數の屬僚等の爲に日鮮融合と云ふことが一つの内容のない所の言葉云々今やならんとして居る云ふ危險がないかを恐れる。而して又我々日本人は植民國民たる能力を持たないかと云ふ疑念すらも抱かしめる状態になつて居る

云ふことを甚だ遺憾とするのであります。

所謂政治の爲に政治を弄んだ所の政治家、資本家の利益を計ることを以て直ちに國民民福を計ることであると誤解した政治家、並に是等の政治家の作り出した空氣の中で踊り廻つた所の國民の失敗は今日既に明かであります。是等の政治家は過去に於きましては資本主義旺盛の世界的潮流に乗りまして、我國の資本主義を今日迄發達せしめた云ふ功績は確か持につて居る。それを私は否定しないのであります。併しながら今回の世界戦争を一つの轉回期と致しまして全世界を擧げて資本主義云ふものは今や行詰りの状態になつて居る。今日に於きましては此の資本主義的政治家は既に爲すべき業務を爲し終へたと云つて宜しいのであります。彼等は將に當然引退すべき立場に在る。彼等が尙ほ其の任に留まるならば更に失政の上塗をするに過ぎないであります。而して現代政治の大半と云ふものは國民の經濟生活に關係して居るものであると致しましたらば我々は茲に新しい經濟哲學を持つた所の新しい政治家が代つて壇上に現はれる云ふことを望まなければならぬ。而して此の政治家は有産階級の代辯人たる代りに一般民衆の指導者でなければならぬ。かの聖書にありまするモーゼの如き天才、即ちイスラエルの民を砂漠の中から安全に導出した所のモーゼの如き國民的天才を國民は民衆自身の間から見出さなければならぬのであります。

諸君、此の普通選舉の實施は民衆に此の力を與へるものであるやうに見える。併しながら民衆は果して此の力を間違なく活用し得るだけの準備、能力を備へて居るものであらうか、普選後に於きましては果して政治上の黄金時代が到來するものであらうか。我國の現状に依り、又外國の實例を參酌いたしましても遺憾ながら私は之に對して否答へざるを得ないのであります。如何となれば人間は甚だ忘れ易いものである。彼の一昨年未曾有の大震災の記憶すらも我々の頭から段々消え去らんとして居る位である。選舉の熱狂時に際しましては色々のことを約束もし云ひもするであります。併しながら若干の月日が経ちましたならば選舉民も被選舉者も選舉當時の約束と云ふものは忘れて仕舞ふ。而して被選舉者

は選舉民の意嚮を重んずるよりも寧ろ其當時の社會に於ける最も有力なる人々の利便を計ることを第一とする、是が世界各國を通じて在來共通の事實であつたのであります。制限選舉時代に於ける所の我國の實情も亦さうであつたのであるし、又普通選舉を布いた各國に於ても矢張り同じ状態であつたのであります。普通選舉を布いた後の日本は世界に稀れる特別な除外例を示すであらうと想像すべき十分の根據を我々は持つて居らないのであります。

更に又行詰つた資本主義に代つて我々の經濟生活を指導すべき新しい原理が何處にあるのであるか。民衆並に民衆を代表すべき彼等政治家は如何なる經濟哲學、如何なる社會理想を持つて居るのであるか。それは資本主義に對抗する意味に於て社會主義であるか。私はこれをも疑ふのである。露西亞は別と致しまして堅實を以て鳴る獨逸、英國のやうな國に於きましても社會主義者が總理大臣の地位に既に就いたのであります。今後の世界に於きまして段々社會主義の勢力が政治上に増して來ると云ふことは容易に想像が出来るのであります。日本に於きましても普選後に於ては其のやうな色彩を帯びた政治家が段々出て來ることであらうとも考へられる。さりながら我々は果して現在の社會主義と云ふものに滿幅の信頼を置くことが出来るであらうかどうか。彼等の云ふ所に無理がないであらうか。實際に英吉利なり獨逸に於きまして社會主義表が政局を擔當した場合に彼等が平素理想として述べて居る所を實行することが出来なかつたと云ふことは是は單に古い勢力と妥協する必要上からのみ解釋すべきであるかどうか。寧ろ實際に仕事をする局に當るに及んでは自分等の不斷の言葉に誤りがあつた云ふことを發見したからではなからうか私は思ふ。今日の社會主義なるものは資本主義と云ふ病氣に對する一の治療劑として生れたものである。此の病氣がなくなれば藥も不要になる。資本主義が減びると同時に社會主義も亦存在の理由を失ふものではなからうか。少くも此の社會主義の階級闘争的色彩云ふものは軌轢すべき階級がなくなると同時に意義を失する。又労働者の専制と云ふが總ての人が労働に従事する時代になれば知識的の労働も亦一種の労働である、社會主義者の中には筋肉労働のみが本當の労働であると甚だ間違つたことを述べる人がありますが私は

之に賛成が出来ない。——總ての人が遊食の徒でなくなりました時には労働の専制云ふことは無意味なものとなる。然らばかくなりし時は既に社會主義の理想が實現せられた時代なのであるか、必しもさうでない。社會主義は尙他に大なる要求を持つ。それは何であるか云うとそれは結局私有財産制度の否認、生産手段を私有することを否認すると云ふことに外ならぬと思ふのであります。併しながら此のことは果して社會主義者の考へる如く望ましいことであらうか。人間の性質に副へるものであらうかどうか。私は今茲に社會主義に對する精細なる批評を下す時間を持つて居らぬのであります。又一口に社會主義を申ししても流派に依つて其の主張する所が色々違つて居りますから一概に之を論評し去ることも困難であります。唯是だけのことは云つて略々差支ないと私は思ふのであります。即ち多くの社會主義者の主張するやうな社會が實現して一切の生産手段が國有又は社會有となつて仕舞ひ、而して總ての職業が國家的、政治的の公共團體の手に依つて與へられる云ふやうな状態が實現したとすれば今日我々の殆ど想像することの出来ない所の強大な権力を持つた國家が茲に現はれて來るのであります。さうして今日我々の有して居ります所の個人の行動の自由云ふことは非常に束縛されるのであります。我々は社會主義の社會に於ては自由なる人間として生活することが困難になる。資本に依つて労働の結果を掠奪する云ふ弊害は免れ得るかも知れませぬが、併しながら各人の正當なる自利心をも抑壓する結果として資本の蓄積と云ふことが十分に行はれないであらう。而して此の社會主義の國家指導者といふやうな者は實に絶大な權勢の地位に置かれるものでありますから此のことは多くの人々をして權勢慾の奴隷たらしむるであらう。又一方に於きまして非常なる官僚主義の弊害を産むに相違ない。而して此の制度が人間の性質に十分適合して居ない爲めに國民經濟全體の衰退を免れざるに共革命後の露西亞に於て經驗せる如きものがあるのではなからうか。而も此の爲に拂ふ所の犠牲と云ふものは實に莫大なものがあるに相違ないのであります。資本主義云ふものは今日既に支持すべからざるやうな立場に行きつゝある。而して社會主義云ふものは亦種々なる缺點を持つて居るものであると致しましたならば我々は

何處に新時代の社會理想を求めたらば宜しいのであらうか。

昔或る詩人は盡日春を尋ねて春を得なかつた、歸來自家庭前の梅の木の一枝に春が既に來て居るのを見出だしたと云ふことを歌つたのでありますが、此の昔の詩人と同じく私は諸君に向つて敢えて斯う云ふことを申し上げたい。我が産業組合こそは新時代の社會理想を體現して居る所のものである。産業組合主義こそは資本主義、社會主義が共に爲し得ざる所のものを遺憾なく達成して茲に人類を一つの新しき文明生活に導き入れるに云ふ可能性を持つて居る所のものである。更に舞台を我が日本に限局して申上げますならば産業組合こそは普通選舉後に於ける所の民衆の政治的能力を訓練するに最も適當なる所の機關であり、又現在に於て行詰つてゐる所の我が國の經濟界を轉回すべき重き責任を荷つて居る所のものである。何故にさうであるか。既に志村會頭も先刻之に付て述べられたのでありますが、私は更に之に付て一言付加へて置きたい。

願ふに社會主義と産業組合主義と云ふものは私有財産制度と云ふものに對する見解が全然異つて居るのであります。社會主義は資本主義を攻撃しては居りますけれども、併し乍ら自ら或る一面に於ては資本主義と同様の弊に陥りつゝあるのであります。恰も泥田より片足を除かんとする者は同時に他の片足を泥田の中に一層深く突き込みに類するものであります。資本主義が物質主義であると同じく社會主義も或る意味に於て物質主義である。資本主義が掠奪的傾向を持つて居るとすれば掠奪者を再び掠奪せよと稱ふ社會主義も亦同じ色彩を持つて居るものである。好意共同等の代りに茲に戦ひの合言葉があるのであります。而して戦ひに勝てる者が敗れたる者に對して常に正義に訴へる所の態度を授るものであらうか。云ふことは多大の疑ひなきを得ない。之を舞台を擴げて見ましたならば彼の今回の世界大戦争、デモクラシーの爲の戦ひであると呼ばれましたる世界大戦争の後に於て戰勝國たる聯合國が獨逸に對して採つた態度を見ましても、又更に他の例を挙げますならば革命後の勞農露國に於て政權を執つた所のボルシェビキが其の政敵に對して執つた所の態度を見まし

ても多くを云はずして明かなのであります。露西亞の文豪ゴリキは露國革命後に於て行はれた所のボルシェビキの野蠻的行爲を辯護いたしましたして、從來資産階級が勞働者を野獸の如く取扱つた居つた野獸としての自由教養が與へなかつた、此の人々により野獸的の取扱を彼等が受けたと云ふことは己れに出でたるものが己れに歸つたものに外ならぬ、又何をか恨みんやと云ふやうなことを述べて居る。併しながら暴を以て暴に報むると云ふことは我々の最高の理想ではないのであります。此の人間性の訣陥と云ふものを其の儘是認し、其の儘助長する如き政策を採ることに對して私共は賛成することか出来ない。更に社會主義は資本主義の弊害に鑑みまして私有財産殊に生産手段と云ふもの、私有制度に反對するのであります。資本の威力と云ふものを極端に考へると云ふ點に於きましては社會主義も資本主義も同様であります。而も資本主義が極端に私有財産使用の自由を認めて、其の結果私有財産を有することの乏しき所の個人の自由と云ふものを事實に於て失はんとするに至つたと同じく社會主義は極端に私有財産を制限する爲に同じく個人の自由を奪ふ所の結果を産むのであります。私を以て見ますれば之れ美に懲りて膺を吹くの類であります。兩者共に財産と云ふものに囚はれて人間を第二に置いて居るのであります。産業組合主義は之を立場を異にして居ります。産業組合主義は決して反抗的、革命的氣分に依つて成立つて居るものではないのでありますから現在の制度を一から十まで叩き潰して仕舞ふと云ふことを以て其のモットーとはしないのであります。否、平和的手段、進化的の徑路を辿つて參る所の産業組合運動と云ふものは現在存在して居る所の制度の中に於て、其の長所を飽く迄も之を維持し、短所だけは之を改めて行かうとするものであります。私有財産制度と云ふものに對しても決して盲目的に其の全部を否定しやうと云ふやうなことはしない。資本主義の弊害と云ふものは認めるものではありますけれども、併しながら其の弊害を除かんが爲に何も私有財産制度を全然否定する必要はないのであります。寧ろ私有財産制は之を存続して而して私有財産制度運用上に適當の制限を付することに依つて資本主義の弊害は除き得るものとすのであるのであります。而も此の私有財産制を維持するに云ふことは是は個人に對し

て勤儉の美風を養ふ機會を與へ、又人格並に行動の自由の保障を完全に與へることを忘れないのである。産業組合主義を云ふものは常に人間を第一義に置いて、資本を第二義に置くものである。組合に對して加入の自由を與へる。獨占を飽く迄も排斥すること、組合員の持口の數を制限する、又如何に持口に差等があつても組合員の投票の權利は悉く平等である。又持口に對する配當の高を制限すること云ふやうなことは是皆人間本位を云ふ此の根本的精神に出で、居るに外ならぬのであります。現在の資本主義の缺陷は之を株式會社と産業組合と對立せしむることに依つて明かに解るのであります。株式會社は大に獨占的である。又株主の持口に制限がない。澤山の資本金を持つて居る者は澤山の發言權を持つて居る。而も資本に對する配當の高は無制限であります。斯の如き資本の運用法と云ふものは資本家を跋扈せしむるやうになるのは當然であります。而して社會に唯資本を擁するのみであつてそれ以外に何等活動せざる遊食の徒を蔓らしむると云ふ缺點を持つて居るのであります。其の結果として勞働する者に對して酬むる所が薄い、勞働する者の生活を保障しないと云ふことすらも起つて來るのである。又資本主義の活動を云ふものを見ますと生産でも分配でも偏へに營利の爲の營利活動であつて、眞に利用厚生を増大して行くことを考へて居ないのであります。それ故に生産を制限して或る財の價格を無暗に擡り上げやうと云ふやうなことは資本主義的事業が常に繰返して平氣で居る所であります。

然るに産業組合の活動と云ふものは、是は根本に於て決して營利を目的として居らぬものであります。是は社會的必要を尤たす爲の生産であり、又分配であります。今日の營利經濟界に於きまして産業組合も時としては周圍の色彩に感化せられて營利的的態度を採るものの中にはあるかも知れませんが、之に付きましては今朝の大藏大臣の告示は甚だ適當なことを云つて居られたと私は思ふ。産業組合は決して税を免れる爲の營利會社ではない。若し營利的色彩の産業組合があると致しましたならば斯の如きは極めて幼稚なる創業時代にあるものか、然らざれば産業組合本來の精神を離れて異端外道に落ちたものであることを云つて憚らぬのであります。斯の如く營利を否定し、又資本の無制限の跋扈を許さない

ことを云ふ點に於きまして産業組合主義が資本主義と根本的に相違して居ること云ふことが明かに窺はれるのであります。資本主義の贏ち得んとする所は競争である。人を倒して自分の馬を乗り上げると云ふことである。産業組合に於ては共同である。相助けて共に進むことを云ふことである。資本主義に於きましては金を儲けさへすれば宜しい。營利の爲には如何なることをも辭せない。産業組合に於ては之に反して社會奉仕の爲に努力するのである。資本の發言權を止めて人格の發言權にする。資本に對する配當を制限する。出來得べくんば寧ろ之をなくしたい位である。而して勞働に對する報酬を豊かにし、尙ほ剩れるものは之を以て社會公共の爲に用ひる。一切の獨占を排斥する。産業組合は斯の如き方針で進んで居る。此の方針にして遺憾なく我が經濟生活のあらゆる方面に行き互つて實行せられたならば私有財産制度を別に止める必要はない。私有財産制度は其の儘之を存続せしめて、而も今日の資本主義と云ふものは又に岨らずして倒れて行つて仕舞ふものである。而して今日よりもより以上に公平なる、より以上に正義に協へる、より以上に合理的なる新社會が茲に新たに生れて來るのであります。而も此の爲に革命に因る所の流血の慘事も犠牲も不必要である。徐々に、平和の裡に、恰も子供に第二の齒が生えると同時に乳齒が何の傷みもなく脱落して行くやうに今日の資本主義の經濟に内在しながら産業組合の普及發達に依つて自ら資本主義が滅びて産業組合が之に代つて來るのであります。

而も彼の社會主義者の考ふる如くに革命に因つて茲に一大變動を來たした場合には新たに政權を握つた社會主義者は如何にして其の事務を處理して行つたら宜しいか、恐らくはなれない仕事に手を焼くであらう。然るに此の産業組合運動の普及した結果經濟組織が變動し、實際の政治の上に徐ろに之が現はれて來ること云ふ場合には、是は長年の經驗に基いて次第々々に其の境に行くのでありますから、失敗すること云ふやうな恐れはないのであります。今回の世界戦争の後に於きまして埃太利が非常に難境に立つたことは御承知の通りであります。埃太利の政治が二進も三進も行かなくなつて政治家が匙を投げた時に、其の後を引受けて困難なる國務を擔當して、さうして饑饉に迫つて居る國民を養つて行かうことを申

出でたのは何であつたか云ふとはは埃太利の産業組合聯合會であつたのであります。又以て此の産業組合なるものが如何に大なる仕事を爲し得るものであるか、又其の當局の人が如何に大なる自信を持つて居るものであるかと云ふことが之に依つて知ることが出来ると思ふのであります。産業組合に依つて共同して事を爲すと云ふことに付て十分なる自覺、十分なる訓練を積みましたならば、又此の産業組合主義に體現せられた所の麗はしき社會理想云ふものを各人が十分に心より把持するやうになりましたならば、斯の如き人は實際政治の極に當つても立派に國家の重きを荷うて行くことが出来るのである。斯の如く考へますならば普選後に民衆に政治上の力が移つた場合に此の力を立派に活用する所の準備を持つものは我が産業組合の外にないとも云ひ得るのであります。

諸君、我國に於ける所の産業組合は在來多く地方の農村に發達して來たのであります。而も利用組合或は信用組合が多く發達して來たのであります。其中消費組合の甚だ遅れて居る。都會に於ける消費組合の如き實に云ふに足らざる有様であります。然るに産業組合が今日の資本主義の營利本位の經濟に代ふるに利用厚生を主とする所の厚生經濟を以てする大事業を成就しやうとしたならば何よりも私共は消費者としての個人に眼を向けなければならぬ。消費と云ふことを前提して生産を致します時に茲に生産は其の投機的の色彩を脱却することが出来るのであります。此の故に歐羅巴諸國の消費組合に於て營んで居ります所の生産事業の發達と云ふものは大に我々が注意して之を研究する必要がある。英吉利の消費組合の如き單にものを買つて消費するばかりではない。其のものを自ら生産するのであります。獨逸に於ても、瑞西に於てもさうである。英吉利の消費組合に於ては印度に甚だ廣い面積の茶園を持つて茶を栽培して居る。又加奈陀に甚だ廣い畑を持つて小麥を栽培して居る。さうしてそれを英國の消費者に供給して居る。歐羅巴の産業組合が生産に於て、運搬に於て、金融に於て、消費に於て驚くべき事蹟を擧げて居ると云ふことは是は今更私が御話する迄もないことでありませう。今日に於きましては更に進んで國々國々間の金融に付ても組合の手に依つて營まんとして居る。國々國々間の貿易

に付ても之を行はんと企てゝ居るのであります。此のことは決して空想に終らないと云ふことは現に英國の卸賣組合が太平洋を通る船舶を持つて居るに云ふことに依つても考へられるのであります。

願るに我國に於ける産業組合運動云ふものは消費組合が未だ餘り發達して居らない。殊に組合は農村にのみ發達して都會に於ては發達して居らない。都會と田舎とを通じて消費組合と生産組合と相提携し、相握手する迄に到達するには年月がまだまだ遠いのでありませう。併しながら此のことが出来上つた日があるに致しましたならば此の時は即ち營利本位なる今日の資本主義が愈々最後の引導を渡される所の日なのであります。斯の如き大事業は固より一日にして成るべきものではない。我々は隠忍して其の日の來ることを待たなければならぬ。産業組合法が發布せられました既に二十有五年、組合員の數は三百數十萬に達して居るのであります。是は先輩有志の御盡力に依ることであつて敢て盛ならずしめない。今此の山口に於きまして第二十一回の大會を開くに當り全國から集られた方が五六千に達して居るに云ふことでありませう。我國何れの團體が其の大會を開く時に斯の如き多數の會員が全國より集まるものがありませうか。誠に盛なりと云ふことが出来る。併しながら之を英國に於て産業組合の組合員五百萬。獨逸に於て七百萬と云ふやうな状態に較べますに數に於てもまだ日本は多少の遜色があるばかりでない、其の實質其の内容に立至つて考へますと我々は餘り大きな顔は出来ないものであります。我々は十分なる満足と誇りを以て我國産業組合の内容を世界の檜舞台の前に曝け出すに云ふだけの自信はまだ持つて居ないのであります。否、近頃は往々にして日本の産業組合は行詰つたに云ふ聲すらも耳にする次第であります。産業組合が最も活動しなければならぬ所の此の今日の時期に内外で斯の如く行詰つたに云ふやうな批評を耳にしますことは甚だ心外のことではありますが、之は抑々如何なる理由に基くのであるか。私は竊かに恐れる、今申上げましたやうな産業組合運動の大理想が或はまだ十分に組合員諸君の間に、或は時としては組合指導者の間にすらも徹底して居ないからではなからうか。爲に産業組合を以て單に資本主義萬能の營利經濟界に於て組合員に小なるブルジョアの地位を



與へ、安心を保障するものである。輕々しく斷じたからではなからうか。さうして組合經營の技術的方面か益々進む。同時に理想もなく熱もなき所の組合は營利會社のものとなつて、形は麗しいか何等魂のない所の形骸として横はるやうになつたからではなからうか。而して資本主義が行詰る。同時に資本主義の一分身たる如き形の産業組合自身も行詰るやうになつたのではないか。我が産業組合が官廳の指導の下に比較的保守的色彩の強い農村に著しく發達した。云ふことは益々此の社會改造の大使命、産業組合の大理想。云ふものを産業組合の内部に稀薄ならしめる結果を産んだのではなからうか。

併しながら時代は動き變るのであります。今日の日本の農村は既に昔の農村ではない。今日の日本並に世界は産業組合法が發布せられたる當時の日本並に世界ではないのであります。我が産業組合設立者が其の當時如何なる理想を抱きしにもせよ、今日の産業組合は正に新時代に適應したる所の新理想を掲げて進まなければならぬのである。先人を超越し、先人を凌駕して、其の人以上に一步を進めて行くと言ふことこそ眞に先人の遺業を繼承する所以である。弟子は師匠よりも偉くならなくてはならぬ。産業組合自身も亦發達しなければならぬ。其の理想も、其の運動も亦益々大きくなつて行かなければならぬ。産業組合法が發布せられて二十五年……二十五年は人が生れて一人前の人間になるべき時であり、選挙の権利が吾人に與へられたる所の時である。……此の二十五年に當りて恰も普通選挙法が議會を通つた。今日こそは我が日本國民の政治的生活の一大轉期であると同時に産業組合運動も茲に一大轉期にあるものではなからうか。

産業組合が日本の中小農家を維持すべき所の唯一の途であると云ふことは屢々人に依つて説かれて居る。日本の農村經濟は窮迫を告げ、農村問題が日に日に研究せられて居る今日に於て此の産業組合の使命は誠に重大である。云はざるを得ない。さりながら産業組合の重大なる使命はそれだけで決して盡きて居るものではない。否、農業、商業、工業を通じて我が經濟界に平和的の一大改造を加へ、國民をして競争より協力を重んじ、營利よりも社會奉仕を重んずる、此の新しい

社會理想に燃えさせ、而して政治即ち經濟の今後の社會に於きまして公正なる政治の行はれる基礎を築いて、より合理的なる、より正義に訴へる、より進化と希望に充ち満ちたる新社會を建設する。云ふこと、是が産業組合の最も大なる、最も重き所の使命なのであります。

是が爲には産業組合と云ふものは單に農村にのみ僻在して居つては行かぬのであります。今日の複雑なる國民經濟の中に於ては農業、工業、商業の間柄は切つても切れない所の有機的關係、唇齒輔車の關係、唇亡びて齒寒し。言ふ關係に立つて居るのであります。都會を無視し商工を無視して農村だけの開發を孤立に考へる學者は時代錯誤である。我國の産業組合運動が行詰つた。云ふ其の一つの原因にそれが農村にのみ發達して居ると云ふことに基いて居るものではないかとも思はれるのであります。恰も田舎。云ふものを抜きにして都會のみの繁榮を希ふた所が決して永続的に成功しないものである。同時に、又都會。云ふものを全然考慮の外に置いて農村のみが富み榮えやうと云ふことを考へても是は今日の時勢に於ては甚だ無理なる注文なのであります。都會と田舎と、農業と商工業と云ふやうなものが常に相對立し、相競争し、一方に於て利益となるものは必ず他方に於て損をするものである。云ふ風に考へることは今日の時勢には適合しないものである。斯の如き見方は是は營利本位、利己本位、自由競争本位の資本主義的の社會觀の殘物である。資本主義が行詰る。同時に斯の如き見方も亦當然改訂されなければならぬものである。それにも拘らず學者の間にも又一般有識者の間にも今日尙ほ斯の如き見解に立つて居る者が少くない。是等の人は唯無批判に、唯古い思想を其の儘踏襲せるに外ならぬのであります。併しながら此の産業組合運動。云ふものは斯の如き時代錯誤の迷ひの夢から醒めなければならぬ。農家が唯米の値段が高くなりさへすれば救済されるものでないと同じやうに農村の産業組合は農村振興の實を擧げんが爲には都會の産業組合と手を握らなければならぬ。産業組合の思想は都會田舎を超越する、農業、工業、商業。云ふものを超越する。而も其の理想は單に一片の夢想ではないのでありまして着々實現せられつゝある。現下の我が國情に對して最も

適切なる應用の可能性を持つて居るものである。

諸君、私は先に資本家及び労働者のここに付て一言したのでありますが、現代社會に於きましては此の兩階級の以外にも資産に乏しき知識階級又は精神的労働者階級が日本に於ても數百萬ある云ふことを忘れてはならぬ。是等の人々も亦重大なる社會的業務に従つて居るものでありまして、一國の文運の進歩、經濟の發達は是等の人々の努力に待つ所が尠からぬのであります。にも拘らず是等の人々は資本家の如く多大の資本を持つて居らない。労働者の如く組合を團結して居らない。其の爲に其の立場は甚だしく等閑視せられて居る。動もすれば兩者の挟み撃ちに會ふのであります。是等の人々の爲に消費組合が發達しましたならば如何ばかり多大の幸福を齎らすものであらうか。更に一步進めて考へましたならば、現在に於ける經濟組織の爲に無用の浪費を負擔して苦しんで居る者は單に是等の智識階級ばかりではない。消費者として考へた時には資本家も労働者も亦全く同じ立場にあるのであります。生産、流通、貯藏等の各種の行程の間に甚だ無用なる、時としては有害なる手續が屢々取られて居るのであります。異體的に例を擧げて見るならば甲云ふ土地の品物を乙と云ふ商人が買ふ、それを丙云ふ土地に持つて來て加工する、丁云ふ商人が又それを買ふ、それを又甲の土地の人間に賣り付ける云ふやうなことは到る所に於て之をやつて居る。而も斯の如きことがどうしても甲乙丙丁の土地の間になければならぬ手續であるならば己むを得ぬのであります。其の必要はないにも拘らず斯の如きことが行はれる。是は皆流通の行程の間に鞘を取つて儲けやう云ふ人々の便宜の爲に行はれて居るものであります。甚だしきに至つては英國に於て實例を見たるが如く甲と云ふ土地から百哩隔つた乙云ふ土地へミルクを持つて行く。又乙と云ふ土地から百哩隔つた甲と云ふ土地へミルクを持つて來て賣る。斯の如き無意味なる事を甲乙の間に行はれて居ることすらある。或は亞米利加産の葡萄酒が船で佛蘭西へ洋行して佛蘭西葡萄酒云ふレッテルを貼られて又亞米利加に逆輸入せられる云ふことも珍しいことではない。遠い外國の例を引く迄もなく我々の日常生活に於てもかゝる例は常に見ることであ

ります。是等は何に無用の勞費が此の間に費されて居るかを語るものである。又競争の結果廣告料として拂ふものが大きなものである。化粧品等の如きものになりましたならば代價として支拂ふものの大部分は廣告費であると云はれて居ります。最も堅實なる、さうして判斷力の高い知識階級を相手とする書籍の如きものすら近頃はアメリカニズムが跋扈して誇大な廣告を掲げる。其の爲に廣告費が澤山になる。書物を買ふ人が本が高いと云ふのは廣告費が高いからである。凡そ斯の如く各種の無用なる費用と云ふものは今日の自由競争の營利經濟組織の必然的の產物である。而して此の結果は消費者として資本家であれ、労働者であれ、商業者であれ萬人が之を負擔して居るのであります。

諸君、亞米利加のやうな天然資源が豊富であつて無駄使ひをしても宜い云ふ國ならばいざ知らず我が日本の如く經濟的に困難なる立場にある國は斯の如き浪費をするだけの餘裕は持つて居らぬのであります。斯の如き浪費を省いて、さうして我々の經濟生活を合理化せしむる道は之を營利衝動に驅られて居る資本家のカーテル、トラスト、株式會社と云やうなものに求める譯にはいかぬ。又之を戰鬪的色彩に充ち満ちて居る労働組合運動云ふものに求める譯にもいかぬのであります。之は實に消費者として見たる萬人を打つて一丸となし、此の消費者の幸福の爲に消費者の要求に基いて各種の生産事業、分配事業と整理統一しやうとする所の我が産業組合によりて初めて期待することが出来る大事業であります。而して此の産業組合運動に依りまして我々の經濟生活が合理化せられた時に、茲に今日の社會に瀰蔓して居る所の一種のサボタージユの氣分は勞せずして一掃せられるに違ひない。労働者のサボタージエ云ふことを漸々人が咎める。併しなからは營利的の資本主義經濟制度の必然的の產物であります。其の資本主義が産業組合主義に依つて取つて代られる時には云ふ心持は當然社會奉仕云ふ熱情に依つて取つて代られるに相違ないのであります。我國は富んでは居ないけれども辛に勞力に富んで居る。此の勞力は其の背後に「働かんとする意志」、を持つて居ない時には尙ほあつてなきが如きものであります。今日の我國に於て最も憂ひますべき點は此の「働かんとする意志」、に缺けて居ると云ふことである。幸に

産業組合運動が徹底普及いたしましたして我々の経済生活を合理化し、且つ労働の念、社会奉仕の念を云ふものを社会に漲らしめることが出来ましたならば、私が先に申し上げましたやうな我國の今日の行詰つた経済的難境を云ふものは之を突破するところが難からず信ずるものであります。否、單に経済的に我國を救ふばかりではない。或は科學に於て或は藝術に於て其他人類の文明を促進すべき各種の方面に於て今日以上の著しき進歩を來たすであらうと云ふことを疑はない。普通選舉以後に於ける日本の政治の堅實なる發達を云ふものは又之に依つて期待することが出来るのであります。單に國內政治ばかりではない。産業組合運動なるものは國際政治の上に非常に重大なる影響を齎らすものである。他を壓倒して己が勝たうと云ふ競争的のモノチヴに依つて動いて居ります資本主義が國際間の軌轢を屢々激發せしめたを云ふことは何人も疑はない所であります。之れと反對に協力して互に助け合つて行かうと云ふことを恒條とする所の産業組合運動が國際間の平和を齎らす上に多大の貢獻をするを云ふことは是亦私の疑はない所であります。國際間の經濟と云ふものが今日の資本主義的の、掠奪的の、利己的のモノチヴに依つて支配せられて居ります間は如何に國際聯盟が戰爭防止を唱へて見ました所が、如何に労働組合が萬國労働者の友愛を唱へて見ました所が到底十分其の目的を達することは出来ない。唯産業組合主義に依つて國際貿易が相互扶助、共存共榮を云ふ精神に充ちました時に茲に我々は初めて有効なる戰爭防止の一手段を發見し得たのであります。

今日に於て既に産業組合の國際聯合を云ふものは出来て居つて、此の精神を具體的に表現せんと試みつゝあるのであります。此の産業組合國際聯合は飽く迄も國際間の平和を云ふことを主義とする。而して先にも申しました通り國際貿易、國際金融を云ふものを將來産業組合の手によりてなさんと努力しつゝある。現在産業組合國際聯合に依つて代表せられて居る組合員の數は世界を通じて三千餘萬、其の家族を勘定したならば一億五千に及び、實に蔚然たる一大勢力である。私は去る大正十年に瑞西のバーゼルに戰後初めて産業組合國際大會が開かれた時の光景を憶ひ起すのであります。其の時私

は我が産業組合中央會を代表して之に臨席するの光景を荷つたのであります。其の戰後初めての國際大會に於きまして獨逸産業組合の功勞者である所のカウフマン氏と佛蘭西の産業組合運動の鼓吹者であり元老であるチード老教授が中央に於て握手し、さうして會衆一同拍手喝采して心より之を祝つた、其の光景を憶ひ出すのであります。而して集まつて居た所の會衆一同は過ぎ去つた、戰爭の如き悲惨事は今後再び之を繰返させないやうに産業組合員は協力努力しやうではないかと云ふことを誓つたのであります。私は政治的の機關であり、政治家の集まりである所の國際聯盟を云ふやうなものよりも寧ろ經濟的の機關であり、各國の民衆が相集まつて出来て居る所の産業組合國際聯合の如きものに依つてこそ却つて國際平和到來を計ることが出来るのではないかと云ふことを痛切に感じたものであります。

先に私は日本は内憂外患交々到るの難境にあるを云ふことを申述べた、此の難關を突破する所の最も有効なる途は即ち我が産業組合である。現代社會は不安に蔽はれて居り、黒雲に充ちて居ると申上げた。此の不安を除き、此の黒雲を除く所の最も捷徑は是は諸君の足許にあるのである。而も其の足許にある途たるや之を進む時には實に無窮の遠きに達する所の可能性を持つて居るのである。諸君は此の重要な産業組合運動を云ふものに關係して居られるのであります。此の意味に於て諸君の使命たるや又頗る重大なるものであると思ふ。私は茲に産業組合法發布二十有五年の本日を祝すると同時に諸君の中より第二、第三の品川彌次郎、第二、第三の平田東助が現はれると云ふことを切に希望する次第であります。

## 産業組合界に於ける金融問題

産業組合中央  
金庫理事 三 輪 龍 揚

私は本日産業組合法發布後二十五週年の此盛大なる紀念講演會に臨みまして一席のお話を申上げることには誠に望外の光榮を存じます。御承知の如く産業組合中央金庫は設立後既に一年餘を経過致しましたが業務を開始したのは昨年三月でありますから實際上の第一事業年度は此三月を以て終了したのであります。中央金庫の經營、業務の方針に就ては昨年福岡市に開催せられたる全國産業組合大會に於て岡本理事より既に詳細申上げた事がありますので本日御來會の各位の中には其話を御聴取になつた方も多數あるだらうと存じますので之れを省きますが、組合、聯合會、中央金庫といふ産業組合の金融系統が出来上りました今日に於て組合界の大勢を觀察致しますると金融上よりして幾多の問題があるのであります。私が見まして重大なる問題と思ふものに付て少しくお話を申上げたいのでありますからどうか暫く御清聴を煩はします。

我組合界を見渡して見まして第一に著しく眼を引くのは組合界に於ては總ての事業に利用の程度が甚だ乏しいことであります。組合員が組合を利用する事が乏しい。組合が聯合會を利用せらるゝ事が甚だ多からず又聯合會は中央金庫を利用なさる事が甚だ少ない。中央金庫は設立後未だ一年に過ぎませぬから利用の少ないのは是は當然のことであり併しなから組合員より聯合會に至るまで事業の利用をせらるゝことが甚だ乏しい事は是は蔽ふ可からざる事實であります。此席には組合員、組合及び聯合會の役職員、並に組合に關係ある方々が御出席でありませうが其方々がどの位組合が利用せられ又聯合會が利用せらるゝか云ふことをお考へ下さいましたならば私が今茲に組合界に於ける事業利用の程度が甚だ乏

しいと申上げることには充分お認め下さることが出来ると思ふのであります。若し此事實を諸君がお認め下さるならば是は組合界に於きまして重大なる問題であります即ち金融上より見ても重大問題にして大いに之れを研究し解決をせねばならぬものであります。

第二は組合界に於る資金が固定して居る云ふ事實であります。此事實も組合及び聯合會の方々に於きまして恐らくは御承認下さることが出来るかと思ふのであります。即ち信用組合に於ては組合員に對する貸付金の返済が期限通りに運ばぬ貸付金が寝て居て不動である云ふ事實であります。購買組合に於ては組合員に買却した品物の代金が歸つて來ない。販賣組合に於ては賣掛代金が回収困難となり利用組合に於ては設備が適當でなかつたり或は甚だに過ぎたりして投したる資金に對し相當の収益を見ることが出来ず全體に資金が固定して動かずに居る様に思はるゝことでもあります。乍併資金固定といふことは獨り産業組合ばかりではありませぬ。我邦の經濟界に於ては一般に資金固定の弊が横溢して居ります。是は歐洲大戦争の好景氣に乗じて無暗に老大的計畫を爲した結果に外ならぬと存じます。此問題は中々重大であります。之を解決する事は一朝一夕に能くすべき事でありませぬから本日は此問題に就て多く申上げる事は避けたいと思ふのであります。

第三は金利問題であります即ち組合界に於る貸出なり貯金なりの利率に關する事であります。此金利問題は諸君に於ても兼々種々御希望もあり又御議論もある點で組合界に於て最も重要な問題の一つであります。此問題に付ては本日少しくお話申上げて見たいと思ひます。其他金融問題として擧げれば幾多の事實幾多の問題があります。其事實を捉へ來り、仔細に之を研究したならば澤山の問題が生じ來りませうが本日は澤山の時間もありませぬので幾多の金融問題中資金固定の事は避けまして第一に擧げたる組合界に於ける事業利用の程度が甚だ乏しい事と金利問題の二つに付て主としてお話を申上げます。

第一の我組界に於ける事業利用の程度が甚だ乏しい事は各位が既にお認め下さる事實でありますから本日は其事實中金融問題として最も重要な信用事業を中心としてお話を申し上げます。御承知を願ひます。

信用組合の事業は勿論貸出及び貯金であります。組合の金融系統が既に完成した今日に於ては獨り貸出及び貯金が組合金融の全部ではなく中央金庫を中心として組合及び聯合會が金融上の連絡をこり全國三百萬餘の組合員の爲他に爲すべき事が多々あると思ひます。是は追々お話し上げる事として先づ貸出の事から始めます。我々が全國信用組合及び同聯合會の貸出金に就て達観して見ます。ス云ふ事實が全國を通じて最も多い様に思はれます。即ち組合及び聯合會の貸付金は一年期限のものが大部分を占めて居つて一年以上のもの或は年賦と云ふやうな長い貸付も少ないし又一年以内の貸付も甚だ少ないのであります。信用組合の貸金が豊富でない場合には長期固定の貸付を避け可成短期の生産資金に重きを置き資金の運轉を敏速ならしめ多數組合員の需用に應ずる様工夫する事は理事者として當然の事でありますが短期生産資金の大部分が凡て一年期限であらねばならぬ事は甚だ不可解の事柄でありまして是は理事者が資金の實際用途に深く留意せずして單に定款の規定に基づき不用意の貸付を爲す結果ではありますまいか。御承知の如く短期生産資金の貸付を爲すには原則として組合員が實際に使用する必要の期間だけ貸出し其使用したる資金に依りて収入が得られたなら其時には必ず貸付金を回収しなくてはならぬのであります。若し是が實行せられぬ時は貸付金は順次他の用途に使用せられ返済の時期を逸するのみならず其間には無用の利息を支拂ひ假令へ低利の借入金でも結局は高利の借金を短期間爲した方が反つて利益となる場合を生じます。斯云ふ譯合でありますから短期生産資金の貸付をなす場合には資金の用途なり事業の性質なり或は借人をなす相手方の資産状態等に充分注意して三ヶ月なり六ヶ月なり或は九ヶ月なり必要期間丈貸出し漫然と一定期間の貸付をなすことを避ねばなりません。併一ヶ年以上二年乃至三年の貸付を要する場合に若し定款の規定等に制せられて無理に期限を短縮する時は書替に書替を重ね或は貸付金の延滞を來し其結果償還不能に陥ることとなります。夫れで外

國では貸付をなす場合には資金の再生に注意することが肝要であるを申し居ります。資金の再生とは如何なることであるかと申しますると一度投じたる資金が再び資金となりて生れて來ることを意味して假令へば米作の肥料資金に投じたるものが米を收穫し之を販賣して代金を得たる時は即ち資金の再生でありまして其再生迄の期間に注意して貸付の期間を定めぬ。貸付金の回収が安全確實でありませぬ。中央金庫は設立後日猶淺きを以て努めて短期生産資金の貸付に重きを置きませぬ。すけれども資金の再生に最善の注意を拂ひまして短期の用途には短く貸出し一年以上の貸付を要するものには夫れ相應の期限を付し償還に支障なき様充分留意して居りますが若し此必なる注意を怠り相手方の云ふ儘に貸付をなせば償還に支障を來す事は當然でありまして組合界に於ける現在の資金固定の弊は主として此邊の不注意から惹起されたるものと認めざるを得ませぬ。要するに組合設立當初に於ては定款上貸付期間を一年限の短期となす事は必ずしも不適當ではありませぬが組合資力の増加に従ひ定款の規定を變更し名實相伴ふ様に事業の進行を圖る事が肝要であると思ひます。

次に申上げたいのは貸付上に用ひらるゝ處の組合員の信用程度表のことです。信用組合では組合員に對して貸付をなす場合には資金の用途を質し信用程度表に來りて金額を査定するのが一般の原則であります。然るに此信用程度表と云ふものが曩きに述べたる貸付期間の規定と同様に事業の進行に伴ひ改正されない場合が多々あります。是は唯一の原因ではありませんが他の原因と相待ちて組合員の産業に要する資金が十分に供給せられず中途半端に過ぎざる爲組合員は組合以外の他の機關に向つて往往融通を求むるものもあります。信用組合に於て貸付を爲す場合に信用程度表に據らねばならぬ事は申す迄もない事でありますが併貸付を爲す上に於て其以外に猶考慮すべき餘地がある様に思はれます。即ち組合員の産業資金特に其地方の特殊物産に要する流通資金の如きものに對しては普通一般に適用する信用程度表のみに依りて貸付金を査定しては産業金融として充分の効果を擧げ組合員の満足を買ふことは出来ませぬ。そこで猶一步立入りて貸付金を特殊物産の賣上代金で安全確實に決済する事が出来る様方法を講じて組合員が要する所用資金の全部を供給して茲に

初めて其目的を達成する事が出来るのであります。御承知の如く中央金庫は組合員各位——組合及び聯合會に對して信用程度表云ふものを作成しては居りませぬが組合及び聯合會の白地信用が是に相當するのであります。組合員の白地信用は有限責任の場合では組合及聯合會の出資金及準備積立金の二つの金額から實際借入れて居る處の借金を差引いて残る處のものを云ふのでありまして出資金の中未拂込金が多い場合には諸種の狀況を考慮して多少の割引をなし猶又損失金ある場合には之を控除する事は勿論であります。此白地信用の範圍内で資金の用途及び借入期間が適當であり從來の取引上不信の行爲がなければ調査等に手間をかけず敏速に貸付を致します。斯云ふことを申上げたならば中央金庫の貸付金額は非常に少額のもので是では實際役に立たぬ諸君は直ちに御考になるだらうと思ひますが是は組合及び聯合會が其所屬の組合員に授與する處の普通一般の信用程度と同一のものであつて普通貸付の標準に過ぎませぬ。此標準以外に實際取引をした結果其償還の成績により又組合の實況を調査したる上適當に認むる場合は勿論白地信用以上に貸付を致しますが猶進んで特殊物産に對し特別融通の途を講じて居ります。

最近中央金庫が發表した處の煙草肥料代金の貸付方法の如き其一つてあります。各位の中には既に御承知の方もありませんが今簡單に其方法に就きお話を申し上げます。煙草の耕作は專賣局に於て耕作者を指定し收穫したる葉煙草は之を買上賠償償金を交付せらるゝ制度でありますから煙草の耕作者で産業組合に加入し其肥料代金の借入希望を有せらるゝ場合には中央金庫は當該府縣の業務代理を爲す信用組合聯合の保證に依り耕作者が加入せらるゝ組合を通じて肥料代金を貸出し專賣局より交付せらるゝ賠償金を以て回収を受くる仕組でありまして專賣局は賠償金中より貸付金に相當する金額を控除し直接金庫に交付せらるゝのでありますから肥料代金として貸付たる金額は確實安全に償還が出来ます従つて此場合には組合の白地信用云々或は組合員の信用程度云々云ふ様な普通一般の標準に依りて貸付を致さないでも貸付金の返済には何等差支がなく實際に組合員が必要なる肥料代金を供給する事が出来るのであります。瀬戸内海其他の地方に於ける製

鹽に必要な資金の如きも亦同様の方法に依り貸付を致します譯でありまして此物産に對しても現在特別金融の途を聞いて居ります全國各府縣には夫々特有の物産がありますから斯云ふ金融方法即ち物産を賣上げた代金を以て買取先より充分確實に回収が出来る途が設けらるゝならば普通一般の標準以上に貸付の途が開かれ茲に於てか組合員は充分に組合を利用し組合は聯合會を聯合會は中央金庫を利用せらるゝ事になりはしないかと思ふのであります。乍併中央金庫は設立後日猶淺く一年になつた許てありますので全國の持有物産に對し今直ちに夫々特別の金融方法を講じ各地方も不満足のない様に致す事は是は困難に容易に出来難き事でありますから組合及聯合會の方々は其地方最寄々々で只今述べた處の方法を適用し地方特有の金融を講ぜらるゝ様希望致します。勿論中央金庫は可成廣く各地方に適用せらるゝ様な題目を選澤して特別貸付の途を講じたいと考へて居りまして遠からず農業倉庫證券に對する貸出方法を發表する見込であります。が其他にも考慮中のものもあります。要するに普通の信用程度表云々又は白地信用云々云ふ様な一般の貸付標準丈の方法で組合員の要する産業資金を供給して不満足ならしむる事は到底出来難い事でありますから飽迄も特別金融の方法を設けて組合界の金融が充分に行き互る様努力したいと考へて居ります。

次は組合界に於ける貯金の問題であります。全國を通じて貯金と云ふ事に付て考へて見まするに組合員から組合に預け入るゝ利率は例外もありますが大體必ずしも高くない。農村に於ても市街地に於ても比較的高くないのであります。市街地組合の貯金利率に付ては全國の取調を了しまして或程度に纏つたものを持つて居りますが農村組合の分は數が多いので未だ茲に御披露する迄に達して居りませぬ。乍併今迄に手に入れた所の事實に付て見るに組合員が組合を能く利用して居る處貯金の平均利率が低廉であります。是は申す迄もなく組合員は自分の手許に二日でも三日でも入用でないものは直ちに組合に持つて來るから所謂當座とか特別當座とか云ふ様な安い利子の貯金が能く預入れらるゝ結果であります。我邦の農村に於て或る府縣を除いては定期又は据置貯金云々云ふものが莫大の額に上ることは到底望むことは得ないのであり

ます。組合の貯金の多いのは組合員が一日でも手許に遊んだ金を置かすにはいつた金は直ちに組合に持つて来て能く組合を利用するからで優良組合は皆そうであります。組合の貯金の少いのは組合員が組合を利用しない處で斯云ふ處程當座なり特別當座の如き安い利子の貯金が集つて居りませんで貯金の平均利率が高くなつて居ります。上述の通り組合員から組合に預け入れる貯金は比較的利子が高くないのでありますが組合から聯合會に預け入れ又普通銀行に持つていつて居る貯金利率は比較的高く組合が貯金の利鞘を中々餘計に取つて居るこゝが我國では現在非常に行はれて居ります。組合側の云ふ所に依れば普通銀行が非常に競争して高く預るから組合では組合員より高率に受入る、必要があり従つて聯合會が高く受入れて呉れなければ組合員が中々承知せぬから普通銀行に持つて行くより外はないと云ふのであります。又普通銀行側では組合の貯金利子が高いので止むを得ず高歩の預金利子を支拂つて居るから是非とも組合の貯金利子を引下る必要があると申します。其是非曲直は今茲に明言の限りでありませぬが聯合會は組合より預つて居る貯金は全國を通じて定期なり据置と云ふ様な金利の高い種類の金額が多額に上つて居つて當座なり特別當座の如き安い利子の貯金が少額であるがら貯金の平均金利が甚だ高くなつて居ります。中央金庫が業務代理の契約をした四十餘の府縣信用組合聯合會に付て調査した處に依りますと一番高く平均利率が上つて居るのは日歩二錢三厘一毛で年利にすれば八分四厘三毛餘に當ります。平均年八分四厘餘の貯金を受入れては中々低利の貸付を致すことは出来ませぬ。尤も聯合會に設立後未だ日淺いものもありすが古いものは既に十五年を経過したのもあります新設早々のものは事情止むを得ぬ事もあります設立後相當の年月を経過し其規模も整つた以上低廉なる種類の貯金を吸収することが出来ぬ様では所屬組合に對し低利の貸付を爲すことは到底困難であります。されば聯合會としては要所／＼に出張所なり又は支部を設けるとか若くは普通銀行及び其支店と特約を結び即ち手足を拵へて定期及据置の如き高歩の貯金を蒐集するに共に一面には低率の當座又は特別當座貯金を吸収する方法を講じ貯金の平均金利が低下する様工夫を凝らす事が必要であります。乍併組合に於ても共に考慮して定期及据置

の如き高歩の貯金のみを聯合會に預入る、様な事をせず從來普通銀行なり郵便局に預入れて居る低利の貯金を出来る丈聯合會に持つて行つて聯合會の貯金の平均利率が下る様に利用せねばなりません。然らざれば組合は聯合會から低利の貸付を受くる事は到底出来ませぬ。要するに組合及聯合會は相互組織の機關でありますから貯金貸付の利鞘は他の營利會社の様に澤山の差異を設くる必要はありませぬが乍併高く預けて安く借る事は出来ないから安く借入をせうと思ふならば安く預入るゝが必要である事を呉々も御承知あります。

信用組合の事業としては貸付なり又は貯金と云ふ事が重要な仕事でありますが其以外に猶爲すべき事が多々ある様に思ひます。組合界では既に中央金庫が設立されたので爲替業務を開始して呉れとの希望が御座ります。從來送金は總て普通銀行が若くは振替貯金に依つたが是等の方法では不便であるから中央金庫に於て爲替業務を開いて組合界の送金を扱つて呉れたならば大に便利であるこの聲が往々あります。中央金庫は勿論業務として爲替を取扱ふ事が出ますが乍併爲替の取扱を爲す前に猶豫備的の任事がありますそれは中央金庫と聯合會との間並びに聯合會と所屬組合との間に預金口座の開始であります中央金庫と聯合會殊に府縣區域の聯合會との間には既に夫々當座貸越若くは預金口座が設けられて居りまして兩者の間に於ける小額の勘定は帳簿の落し合にて之を決済する途が開かれたのであります。聯合會と所屬組合との間にはまだ中々全般に亘りて當座勘定が開始せられて居りませぬ。昨年秋頃から本年にかけて私が参りました地方は此仕事に付て大に力説した結果著しく口座の数が増加致しましたが全國的には猶前途遼遠であります。若し組合が加入したる聯合會に對し總て當座勘定を開始したならば其口座を利用して聯合會及中央金庫との間は勿論聯合會及中央金庫所在地の簡人及法人の少額ならば金銭の受渡を爲す事が出来ませぬ假令へば組合各位は産業組合中央會に加入して總て正會員となり年々一定の會費(金十六圓)を納められますが組合が若し聯合會に當座預金の口座があれば小切手に金額十六圓と記入し記名調印の上中央會費として送付する旨書面を添へ當該府縣の支會宛に郵送すれば宜しいのである支會は其小切手を聯合會に持

参し自分の中央金庫の業務代理所の口座に預金して入金方を依頼致します。そうすると聯合會は其組合の預金口座から金十六圓を落し業務代理所の帳簿の支會の口座に預金して記入致します。支會が中央會へ送金したい場合には業務代理所より貰つて居る小切手に金額を記入し記名調印の上正會員幾名分の會費として納付する旨の書面を添へ中央會宛に郵送すれば中央會は其小切手を中央金庫に持参し預金致します。此場合には中央金庫は當該聯合會へ支會振出の金額何百圓の小切手を中央會の預金として何月何日受入れたる旨通知し聯合會は代理所の支會の預金口座から該金額を落します。斯云ふ風に帳簿上にて金錢の受渡をする事は一種の送金即ち爲替作用でありまして銀行業務では之を預金の振替決済と申します。右は一例を擧げたに過ぎませんが近頃中央會で發行する雜誌家の光又は中央會出版の書籍を組合員が購讀する場合の如き或は組合員の子が東京の學校へ入學し毎月學費を送金する場合の如き何れも大同小異の方法に依り之を辨ずるこゝが出来ぬのみならず又之れを反對に東京より地方の組合に送金したい場合には中央金庫は當該地方聯合會の預金口座に某組合の分何圓受入として聯合會へ通知し同會は亦某組合の預金口座へ預金として記入し必要に應じ現金の受拂をなすのであります。預金が小額であれば多額の拂渡は望めませぬ從て取引が漸繁となり預金が増加せぬ限り當分の間此方法による一種の送金即ち預金の振替決済は大を望むこゝは出来ませぬ併組合の金融系統が兎に角完成した以上小額の送金でも銀行又は振替貯金に依頼せねばならぬ云ふことは我等組合界の金融に従事するものにして實に恥辱でありますから組合各位は振つて聯合會に當座勘定を開始し相當金額を預入れ此口座に依りて振替決済の途を開き他の機關に頭を下げて送金を依頼する必要がなくなる様御奮發を願ひたいのであります。高知縣信用組合聯合會にては所屬組合殊に商業者を組合員に有する市街地又は同類の組合に對し當座勘定若くは貸越契約を締結し小切手の發行によりて預金の爲替をなし組合員の送金を使せしめ相當金額の當座預金を吸収して居ります。是は一種の事例として参考の爲めお話し申上げて置きます。要するに物事は總て小に始めて大に及ぶのが順序でありますから先づ第一に當座勘定を開始して小額の送金問題を解決

し漸次大なる爲替問題に進みたいと思ひます。

次に信用組合及同聯致會の事業として申上げたいのは組合員の金融上の相談相手なることであり。外國殊に獨逸の如く自治的監査制度の確立せる國柄に於ては組合は例外として聯合會乃至中央金庫は其所屬員の金融に對して彼是交渉する必要がなきが如きも我邦に於ける組合現在の状態では大に必要があるに存じます。現に優良組合中には貸付及貯金以外に組合員の産業上經濟上の相談相手となつて努力して居る例が多々ありますが併聯合會が組合に對してそふ云ふ方法を講じて居る處は甚だ少ないと云ふよりは殆ど皆無で香川縣信用組合聯合會が唯一の例であります。此聯合會では組合の要求ある場合には實地に人を派遣し金融は勿論經營上の相談相手となりて組合の改善に資する處から大に効果を擧げて居る様に聞いて居ます。中央金庫でも聯合會に對する金融計畫作成の爲め之を援助したい考を持つて居まして只今其人物養成中であり。また遠からず聯合會の要求に應じて實地に人を派遣することが出来るに存じます。要するに信用事業として貸付なり貯金なり送金なり若しくは産業上經濟上の相談相手なることは固より購買販賣利用等各種の事業に付ては總て充分に之れを利用せらるゝことが肝要であります。組合員が組合に聯合會に組合及聯合會が中央金庫に加入せられた上は之れを利用せなければ何等の効能も何等の利益もありません。事業利用の程度が乏しいことが現在組合界の一大通弊であることを認めたらば相互機關の一員として我々は御互に充分此機關を利用して共存同榮の實を擧ぐることに努めたいと思ひます。

資金固定の幣は重大問題で短時間で此問題を説明することは甚だ困難であります。本日は之れを避けます。併中央金庫は此資金固定の幣を如何にして之を緩和すべきかと云ふこゝを研究して既に一つの成案を持つて居ます。不日之れを發表して御覽に供し實行を願ひたいと存じます。

最後にお話を申上げたいのは金利問題であります。中央金庫が設立せられたらば組合は低利の貸付と高歩の預り金に



依り多大の利益を受くるであらうと其期待は甚だ容易ならざる様でありましたが金庫が発表した處の貸付及預け金利率を見て大に失望の中には随分露骨に攻撃を加へらるゝ方々も尠からざる様であります此問題に付ては信用組合の經營を實例として説明するのが最も了解し易い方法と存じます御承知の如く信用組合の經營をなす場合に當り貸付金の利率は如何にして之を定めたら宜しきやと申するに之れは先づ一應貸付金の資源たる組合資金の性質を吟味するに必要であります産業組合教科書にも述べてある通り組合の資金は四種より成立ちます即ち第一、出資金第二、積立金第三、借入金第四、貯金で是四種の資金が貸付の資源でありまして第一第二を總稱して自己資金と呼び組合資金の基礎を形成するものでありますが出資金は主として小産者の團體なるが爲め其の性質上からも法令上からも組合員をして多額の出資と爲しさむることは出来ませぬ又借入金は組合各自より拂込みたる出資金其他の資金を以て其事業を遂行するに不足なる時初めて信用組合聯合會又は中央金庫等より融通を仰ぎ其不足を補ふべきものでありまして組合資金の本體ではありませぬ申す迄もなく信用組合は自治自助と共同相助の精神に基き團結したる相互組織の機關でありまして組合員間に有無相通することを原則とすべきものでありますから貯金は組合の資金中最も重要なものであります貯金が貸付金の主たる資源であるならば貸付利率を定むる上に於て第一に重きを置くべきものは四種の組合資金中貯金利率であらねばなりません。此の三種の資金（出資金及積立金を自己資金として一種にすれば）如何なる關係にあるかを申しますれば自己資金は組合員に利益配當の責任がありますから普通の配當歩合年六分が貸付の元利であります。貯金は云ふ迄もなく組合員に支拂ふ處の貯金利率であります。既に先程申上げた様に優良組合なれば比較的短い低利の貯金を澤山持つて居つて是が爲め定期とか据置の如き高いものと搦き混ぜて其の金利は頗る低利である。定期及据置が六分でも當座とか特別富座が三分とか四分であれば其の低い金利の方が高いものを引下げて平均して見るに五分か五分四五厘位の元であります。借入金を如何程低利に借入れても信用組合の貸付資源である處の貯金利率が高い場合にはどふして組合員に低利に貸出すことが出来ませうか。要す

るに信用組合は自己資金と貯金と借入の三種の資金の利率を平均し其の上に若干の經營費を加算したる歩合を定め組合員に貸付を爲すのであります。是は當然のことで獨り信用組合のみならず銀行經營に於ても其他の金融機關の經營に就ても總て此の様式に依るのであります。そこで信用組合が組合員に對し低利の貸付を爲すは第一に低利の貯金を蒐集せねばならぬ。乍併貯金は他の金融機關との關係がありますから信用組合が唯獨り低利に吸収することは出来ませぬ。でありますから低利の短い貯金を集めて高いものと搦き混ぜて低くすると云ふことを考慮せねばならぬのであります。此の原則は信用組合聯合會に適用しても同一である。然るに先程お話し上げた通り聯合會は高い利率の貯金を比較的多額に吸収して低利のものを蒐集して居りませぬ従つて低利の貸付を爲すことが出来ぬ譯であります。されば信用組合に於ても充分此點を考慮し出来る丈低利短期の貯金を聯合會に預入れ聯合會は亦支所なり出張所なり其の他の方法に依り手足を拵へて低利の貯金を吸収する工夫をなし組合に對して低利の貸付をなし得る様一段の努力を望む次第であります。

又右の理由を中央金庫に適用して考へて見るに若し中央金庫に於て信用組合が聯合會に亦組合員が組合に預入る、貯金と何等の交渉なく貸付利率を定めましたならば即ち低利資金の如き低廉なる特別の金利で資金を供給致したならば信用組合及聯合會は何の必要があつて貯金の吸収に務めませぬか。貯金より低利の貸付を受くるに於ては借入金に依りて資金の調達をなした方が一番容易である、組合を經營する上に於ても聯合會を經營する上に於ても亦然りでありませぬ。若し中央金庫に於て右の如き無定見なる方針に依り節制なき貸付をなしたならば其の結果は組合及聯合會を借金組合借金聯合會に變化し組合界の自治自助を破壊するに似たりであります。故に中央金庫は金利政策の上に於ても飽迄も自治自助の精神に基づき着實に段々と進んで行くべきであると思ふのであります。中央金庫は是等の點に鑑みまして組合が聯合會に預入をなさるゝ處の貯金の平均金利即ち最高最低のものでなく高いものと低いものとを搦き混ぜて平均した處の平均金利を一面の標準とし當該地方の諸般の經濟事情を考慮し其の上に相當の利鞘を投げて貸付利率を定めましたのであります

す。御承知の如く金利は府縣の状態に依りて相當の差異がありますので現在では聯合會に對しては最低日歩貳錢より最高二錢三厘の範圍で融通を致して居ります。組合に對する貸出利率は當該地方の府縣聯合會の利率と大體同一であります。が最高日歩二錢七厘以内であります。夫れで聯合會が若し其の所屬組合に大に協同して金利を下げたいと云ふ希望を有せらるゝ場合即ち組合から各種の貯金低利の短い貯金も充分に蒐集して其の貯金の平均金利が低減されたならば中央金庫は其の狀況に應じて金利を下げたいと考へて居ります。

要するに結論としては貸出なり貯金なり其の他の事業に於ても組合員が充分に組合を利用せられ組合は主として聯合會を組合及聯合會は亦中央金庫を利用せらるゝに至らば組合界に於ける各種事業の分量は大に増加し薄利多賣の原則によりて組合員の受くる利益は多大であると信じます。私は現在組合界に於ては事業利用の程度が甚だ乏いことを第一に申上げ次に金利に付ては相互組織の金融上自から一定の原則あるを以て之に従ふ外致方がない乍併組合員及組合より聯合會に至る迄最近完成したる系統的の相互金融機關を夫々充分に利用せらるゝならば金融は漸次圓滑に赴き又金利も自然低落すると云ふことを申上げて此の御話を終ります。

## 本邦産業組合運動の回顧

東京帝國大學教授 農學博士 佐藤 寛次

私は我國の産業組合の來歴に付きして聊か御話いたしました。次の二十五年を起すべき現況に至つた迄を振り返つて見たいと思ふのであります。即ち柳田先生の『次の二十五年』に對しては或は『回顧二十五年』の演題が適當であるやうに思ひますが、併し我が國に於ける産業組合運動の上から申しますと、回顧二十五年では實は足らぬので、それに十を加へて回顧三十五年でなければならぬから、茲には長い題目を選んだのであります。御承知の如く我國の産業組合はさう考へましても品川子爵を父とし、平田伯爵を母として生れたのであります。私は父と母との間に決して差別を設けやうとはしない。二人あつて初めて我國に産業組合の制度が起つたものだと考へて宜しいのであります。此の父と母の努力に依つて生れました所の産業組合が今日迄の状態を持ち來たしたに付きまして、何等か其の間に於て特に我々の頭の中に強い印象として残るものは何であるかと云ふことは故らに言葉を加へませぬでも最も明かに現はれて居りますやうに昨日來の大會或は過去に於て催された處の大會に徴して見ても實は極めて明瞭になりはしないかと思ふのであります。

私は明治三十八年に於きまして加納子爵が全國の産業組合の役員を東京に集められた際に關係を持つて居つたのであります。其の當時に於ける來會者の數は幾らであつたか。確かに私は記憶して居るのであります。それは總員僅に四十二人であつたのであります。私自身が産業組合大會には國內に居た限りに於て、仙臺の大會を除く外は缺くることなく出席するの光榮を得て來たのであります。其の間に於ける組合の數及組合員數は極めて長足の増加歩合を示して居る。昨日も

會頭開會の辭にもありました通り、又諸君が産業組合資料展覽會に於て御覽になつた通りでありまして極めて明瞭でありますから私は敢へて其の數を繰返へさうことは致しませぬ。數の上に於ける昔も今日との差に加へるの更に産業組合の制度、即ち組合相互の聯絡に於て又、産業組合間に於ける金融の組織に於て加へられた改善は著しくなり、大体に於て制度としての産業組合は略々完成に近いと云つて宜からうと思ひます。現に英吉利、佛蘭西、獨逸、丁抹等の組合運動も其の機關の陣立等から見ても、特に劣る所が多いといふことは出来ぬ。但し此の制度が適當に運用せられて居るか否やと云ふ問題は別問題であります。形式から見ますと略々備はれり云ふ言葉を以てしても差支なからうと思ひます。即ち我國の産業組合の制度としての根柢は出来上つた云うても差支ないと思ふのであります。産業組合法發布以來二十五年を記念するに當りまして此の意味に於て之を爲すことは敢て差支ないと思ひます。産業組合は非常に發達した、非常に偉い力を持つに至つた、非常に偉い所の理想を達するに足るだけの力を持つと云ふ意味に於て二十五年を記念して祝賀するには私は現状を以て十分は考へないが少くも産業組合と云ふ制度の基礎工事が出来たと云ひ得ると思ふのであります。

扱て此の基礎工事の出来上る迄に於ける事項を少しく回顧して見たいのであります。第一に我國の産業組合の制度が今日迄の間に幾多の變遷をして居ると云ふことであります。我國に最初産業組合として生れたものは信用組合であつたのであります。勿論個々の地方々に於て色々の組合が起つたことは認めるのであります。組織立つた運動としては信用組合の設立であつた。此の信用組合はさう云ふ意味のものであつたか。品川子爵の遺された色々の資料及明治二十四年提案者としての説明からも之を明瞭にするこゝが出来るのであります。最も簡単に云ふたならば嘗て平田前會頭が洩されたやうに、「物質上の共同扶助と精神上の共同團結に依つて經濟界の變遷に伴ふ各種の危害に對抗して社會の健全を保ち社會發達の機能を遂げしむる」趣旨のものであつた。此の抜粹は明治四十年に於ける御話してあります。此の考へは矢張り信用組合の生れる際に於ての考へであつたのであります。此の信用組合の生れました時期は皆様御承知の通り我國に於

ては漸くに憲法が出来上つた時である。憲法の運用の第一歩が始まつた時であります。地方制度が漸くにして法律の上に於て現はれた時であります。市町村制が漸くにして出来上つた時であります。一國の國民生活の上に於てきましては漸くして歩を進めて行かうと云ふ時であつたのであります。是を國際界に於ける日本の位置から申しましたならば我國の最も恥とした所の治外法權がまだ撤去せられない時であつたのであります。世界に於ける國としては一人前に足らない時分であつたのであります。其の時分に於て此の信用組合を起して行かうと云ふ氣分の中には單純に經濟上の機關とし金融の便を與へて行かうと云ふばかりではない。金融の便を與へると云ふ積りもあつたのであります。それよりも寧ろ社會生活の完全を保持する爲めに存する一の機關として何處までもやつて行きたいと云ふ氣分が現れて居つたやうに私は思ふのであります。

さう云ふ氣分であるならば何故に信用組合と云ふ名稱を採つたのであるだらうか、又何故に信用組合だけで以て十分としたのであるだらうか。斯く云ふことに付ては色々の人の考へに必ずしも一致點があること云ふ譯にはいかない。併し當時産業組合の種子として蒔かれた其の種子の中には在來我國に存在して居りました所の報徳社があつて、此の運動に大なる關係があつたのであります。それから信用組合以外の産業組合の事業に付きましては信用組合が最も圓滿なる發達を遂げた場合に於て之を實行し得るのであります。販賣のことも、購買のことも、今日から云へば利用のことも信用組合の事業の運用に依つて大体出来るんだと云ふやうな考へがあつたのであります。そこで信用組合を一番先に捉へたやうに思ふのであります。此運動は議會に於ける立法の事業としては失敗に歸したのであります。失敗に歸した原因には無論色々あるやうでありますけれども、唯一無二の原因としては議會の解散其のものであつたのであります。尙ほ詳しいことを申せば色々ありますが今日はそれだけにして置きたいと思ふのであります。

立法事業として失敗に歸したことは品川子爵、平田伯爵の個人的努力、個人的感化、個人的關係等に於ける運動とし

て現れまして或は信用組合の名を以てし、或は他の名稱を以てして各地方に種々の組合が生れるやうになつた。所が明治二十七八年の戦勝は我國の國民生活をして纏つた一体をなさしめたものであります。世界の一國として認められたのは此の日清戦後であつたのであります其の日清戦争が終りますと勢ひ戦後経営云云云云が問題になつたのであります。此の戦後経営に當りまして、國の將來に付て考へて居る人々の間には色々の考案もあつたやうに見受けられますが、何と云ふこともなければ我國の位置を保つ譯には參らないし、又我國の國民智徳を向上せしむることは出来ない。此の舉國一致の實を擧げるには單に政府の施設や、大事業の發達に留意する云云云云だけでは足らぬ。國民の所謂總動員を必要とする云云云云になつたのであります。日本勸業銀行の如き、農工銀行の如き此際に設けられたことは云ふ迄もありませんが、此等の勸業、農工銀行を設立したときは有識者の頭の中には、地方に於てもさうしても其下にあつて國民全体の運命に最も重大な關係のある産業組合事業を起さう云云云云が胚胎したのであります。即ち茲に産業組合法の立法運動が復活するこゝになつたのであります、これは農工銀行法の成立した翌年即ち明治三十年であります。但し此の時は信用組合法案の名に代ふるに産業組合法案云云新しい文字が使はれて居るのであります。而して其の産業組合の中に含まつて居る所の組合は信用組合、販賣組合、購買組合、製産組合、及使用組合の五つでありまして、何れも皆事業の改良發達の上に貢献せんことを期して居るのであります。信用組合に於ては金融、販賣組合は販賣上の便宜、購買組合は購買上の便宜、製産組合は共同生産、使用組合は機械の共同使用をしようとするものであつて、それ以外の目的を有するものではないのであります。事業の改良發達を計る機關として産業組合を起さう。而して國民を總動員して戦後経営に當らしめ以て生産を奨め、國民中最大多數を占むる中小産業者の事業の進歩發達を計ることに付て努力しなければならぬ。其の努力をする方法として地方には産業組合を設け、農工銀行を設立し、中央には勸業銀行を作り、其の他色々の金融及び産業政策を實行しやうとしたものである即ち戦後の経営として國民を擧げて此の方面に努

力する。斯う云ふ氣分であつたやうに見受けるのであります。

品川子爵の御話を一つ讀んで見ます。

『日清戦争は我々を驅つて列國の競争場裡に突進せしめた。吾人の境遇を譬へれば尙ほ内海に航する船舶が一時の風潮に乗つて俄かに外洋に出でたるが如し。激浪を打ち、帆は破る。時としては瀕没の恐れなきを計られずとも雖も船体堅牢にして、機關完全なるは勿論薪水充實するにあらずんば安んぞ此の艱難を凌ぎて彼岸に達するを得べけんや。』

斯う云ふ言葉の後は

『然らば吾人は何を以て列國の競争場裡に立たんことをか、陸海の軍備を修め、退きては疆圉を全うし、進みては國威を伸ぶるに同時に益々殖産興業に努め以て國力を充實せしむるにあるのみ。而して此の殖産興業のこゝたる種類多き範圍廣しき雖も今日の計は先づ其の根本に付て之を培養するより急なるはなし。』

ごありまして、此の根本を培養する云云云云は何であるか云云云云産業組合だ、斯う云ふことを云つて居られるのであります。即ち此の時の氣持は、私は其の當時の先輩である所の品川子爵の言葉を引いたに過ぎないが、斯う云ふ氣分を以て産業組合を起すのは生産を勧め、殖産興業を計る。一國を通じて總ての人がさう云ふ方面に努力しなければ日清戦争云云大事業をやつた後の日本の將來を如何せん、斯う云ふやうなのが眼目でありましたから茲に於て産業組合云云名稱は丁度よく當て嵌まるのであります。産業組合云云名は此處から實は起つたらうと思ふのであります。明治三十年の法律の中に書いてある所の文字及び此の法律を議會に提出した時の立案者の説明、其の當時に於ける所の人々の考へなきを綜合して參りますと云云産業組合云云文字通りの意義に該當する組合は明治三十年の法律を以て規定した組合であること考へて然るべきであらうと思ふのであります。

所が此の法律に對して色々の異論があつたのであります。一つの異論はそれは社會主義を實行する所の方法ではなか

うか、何でも共同にしよう、其の共同にする云ふことを何處迄も押して行く云ふ社會主義を實行する云ふことになりはしないか、斯う云ふやうな考へを述べた人があるのであります。それは唯であるか云ふこと末松謙澄云ふ人であつた。其の當時の末松謙澄氏は新知識の人であり、又非常に重きをなして居つた人であつたのであります。又他の有識の人でも産業組合設立の結果がさうなるだらうか云ふことを考へられた時に其の當時に於ける大企業發達の道行に産業組合の規定に依る所の道行の間には必ずしも調和が保れぬではなからうか云ふ心配をした人もあるのであります。小幡篤次郎云ふ人は其の意味に於て反對した。日本銀行の總裁をした、富田鐵之助といふ方も之に反對せられた。色々の事情も其間にありまして、要するにかうして政府當局に於ては審議せられたに拘らず容易に進行しない。十數回の會合があつたに拘らずさうしても旨く進行しない。最後に信用組合だけは認めやう、信用組合以外の組合を認むることはまだ早い、といふ論がなか／＼盛になつたのであります。立案者は信用組合のみを認めた法律に産業組合の名を與へることは不可能であるから、最後に使用組合及製産組合の削除には同意するも、信用、販賣及購買の三組合はさうしても維持したい云ふ所まで行つたのであります。要するに時熱せず本會議に報告せざることに決し、此の立法事業は失敗に歸したのであります。

其の後政府は更に研究を續け岡野博士及酒匂博士(常明)等の努力に依り明治三十三年三度議會に提案したのであるが是れは現行法に餘り變りはない所まで進んで來たのであります。産業組合の事業中に殖産興業云ふことの外に組合員の家計を豊にする所まで及ぼすやうになつたことは今更私が説明する迄もないのであります。即ち産業組合の中に「産絲の發達」なる文字の外に「經濟の發達」を計る云ふ文字が用ひられるやうになつて來たのであります。其の經濟の發達を計る云ふ意味は普通世間の人々の使用する「産業及び經濟」云ふ場合の經濟は少し意味が違ふのであつて、組合の經濟の意味は家計云ふ字と同じことである。組合の目的は組合員の事業の改良發達を計ると同時に家計の發達を

計るにあるのでありますから、三十三年の組合法の中に含まれて居る意味は三十年の法律案の意味とはまるで其の意味を異にしたものであるのであります。即ち消費組合が此際に於て認められて居るのであります。同じ産業組合法ではありますけれども立法運動中に於て其の産業組合に含まれて居る所の意味が大變違ひが起つて來た云ふことを認めなければならぬのであります。而して此の産業組合法になつて初めて世界的の意味に於ける産業組合法云ふものが出來上つたのであります。其の後のことは是は皆様の御承知の通りでありまして、消費組合のみ家計の發達の爲に存在したものが、更に信用組合もその事業の一部を家計の發達に擴げ得ることとなり、生産組合は利用組合に變つて参りまして、住宅問題解決を一目途とするなご經濟の發達を計ることも其の目的の一になり、一方に於ては事業の改良發達を計り、他の方面に於ては家計を豊かならしむる爲めに諸種の便宜を計る云ふことになりました。茲に今日の産業組合の形に變つて來て居るのであります。かくの如く産業組合云ふ名稱は三十年のもの今日のものとは大いに相違があるから、此の名稱は面白くない。經濟組合にしよう、或は其他の名稱を使つて欲しい云ふやうな問題の起るのは矢張り斯う云ふ點から來て居るのであります。併しながら我々は關係がないが從來永く使ひ慣れたのであります。我々は此の産業組合云ふ文字の中に含まれて居る所の意義の發達さへ認めますれば、敢へて他の名稱を用ふるの必要はないと思ひます。

斯う云ふ具合に産業組合の種子が我國に下され、根を張り、幹を作り、今日迄進んで來たのであります。其の茲に至つた基因は如何。それには色々の事項があらうが最も重要なものは先づ國情であると思ふのであります。我國は經濟上の事情から申し申しても、社會上の事情から申し申しても世界の中心から遙に離れた所にあるので特殊の形体を備へて居つたのであります。資本主義經濟の發達の爲めには明治の初年から可なり力を盡された譯ではありますけれども、此の組合法の出來る際に於ては先にも申し申したやうに眼の前に現れんことを危難に對して我が國民經濟の防護を爲し、國民の考へ方を慎重にせしむる必要があつた。言葉を換へて申しますると資本主義に付ての弊害は歐羅巴に於て既に屢々經驗し

た。寧ろ餘る程の経験を持つて居る。其の弊害は目の前に見える。而して日本の國情はどんな國情であるか云ふも多少の大事業者はあると申しましても是は僅少である。多くの人々はさうであるか云ふも、品川子爵の云はれる通りに「國の根本をなす人は中産以下の人々である。此の中産以下の人々の手に依つて我國が保たれて居る所の事情の下にある。此の事情の下にある所の人の生活安定の途を考へればよい、又考へさせられるやうな國情にあつたのであります。斯う云ふことが我國の産業組合運動の種子を下されて其の種子が生えた所の一つの原因であると思ふのであります。第二は前にも申しました日清戦争の後に於ては日露戦争、此の二大戦役を経て居るのであります。其の戦後の經營の爲に國民の總動員が必要であつたのであります。此の國民の總動員なくしては日清戦争後に於ても日露戦争後に於ても戦後經營の目的を達することは出来ない云ふやうな事情にあつたのであります。國民を擧げて其の目的を達する爲には産業組合の制度以外に適當なものがない、斯う云ふやうな事情にあつたやうに私は思ふのであります。先程御話した品川子爵の言葉の如き日清戦争後に於ける事情を明かにするものであります。産業組合中央會が三十八年に成立した時に前田正名氏が斯う云ふことを云はれて居る。

『平和の克復（日露戦争後の平和克復なり）は人道の爲に賀すべく、日英同盟は東洋平和の爲に賀すべく、中央會の成立は産業發達の爲に賀すべし、之を明治三十八年に於ける三慶事とす。』

斯う云ふやうに明治三十八年の時分にも國民總動員云ふことを矢張り考への中に入れて、さうして其の總動員をする上に於ては産業組合が重要な役目を爲す働き手である。其の爲に産業組合中央會が生れた云ふことが國家の慶事だ斯う云ふ意味であると思ふのであります。斯う云ふ具合に日本は二大戦役を経験し、其の經驗に依つて日本の弱點も解かり又強點も解つたのであります。其の強點を更に強點として持續する爲に國民の總動員をしなければならぬ。國民の總動員云ふことは平民的に事業の改良發達を計り、國民の家計經濟を豊かならしむる爲めに國民の全部を通じて勤勞を貴

び、生産を擧げ、消費の節約に任せしむる産業組合の普及を圖り、其の恵を享けしむることであるといふに在る。

それからもう一つ我國の産業組合運動に於て特色のある所は何處であるか云ふも、國情の外に此事業は民間に於て生れた運動もありますけれども概して申しますと政府のやつたことが多かつた。是だけはさうしても認めなければならぬ。立法事業其のものが政府が原案を出しまして居る云ふことは云ふ迄もないことではありますが、組合法が明治三十三年に出来まして、其組合法をさう云ふ具合にして普及せしめたか申しますと政府の力が興つて大であつた云ふことは疑ひのない事實であるのであります。柳田先生は今日官廳の人ではないのであります。明治三十三年の組合法發布當時に於きましては農商務省の參事官として組合宣傳の第一線に立たれた方であつたのであります。産業組合中央會が生れた時は柳田先生と有働技師（良夫博士）とは中央會の最初の講師であつたのであります。二人とも官廳の人であつた。講習會を開いて産業組合の趣旨宣傳を行つたのは誰であつたか云へば先づ農商務省それ自らであつたのであります。此の中には必ず農商務省主催の第一回の講習會に出られた人もあるだらうと思ひます。第二回の講習會に出られた人もあるだらうと思ひます。第三回の講習會に出られた人もあるだらうと思ひます。地方廳に於て、或は農會に於て産業組合の趣旨宣傳に従つた所の人々の多くは除外例はない云ふ譯にはいかないが、多くは此の農商務省の講習を受けた所の人であるやうに思ふのであります。又産業組合の發達を計る上に於きましては政府は屢々訓令を發し、適當の指令をしまして、地方廳と共に此の産業組合の發達に盡力した云ふことも認めなければならぬことであるのであります。産業組合雜誌の第一號であつたと思ひますが、それを御覽になるに「産業組合早わかり」云ふ一つの小説があるのであります。多分此の中に御出席と思ひますが、此の小説に書いてあります所の署名者は夢堂老生であつた。此の方は今日産業組合中央會庫の中に居られる惠登代磨さんであります。其の早解りを讀んで見ますと云ふも、國本豊云ふ地方の有志の人に此の産業組合の必要を説いた人は明府知事である。斯う云ふ點から見ましても我國の産業組合の趣旨宣傳は官廳の人々がやつたこ

云ふことは我々は認めない譯にはいれない。勿論全國農事會、地方農會、地方有志の人々の中には此の産業組合に對して色々世話をした人もない譯ではないけれども、少くも一つの特徴としては我國の産業組合は官廳の人々の手に待つた所のものが甚だ多かつた。少くも趣旨宣傳云ふことに付ては之を認めない譯にはいれない。併しながら此の官廳の講習會、講習會に於ける中心の思想は何處から出て來たのであるだらうか。中心の指導意識でも名づくる所のものは何處に其の潤源を發したものであるだらうか、斯う云ふことに付て考へて見るに矢張り之も身は官廳にあつたことの多い人ではあります。私には必ずしも之を官廳的運動のみは考へられない。それは何であるか云ふに、先に御話した所の品川子爵其の人の個人的感化力、故平田伯爵の個人的感化力は認めない譯にはいれない。此の個人的感化力は或は政府の當局者となり、産業組合中央會の幹部となり、或は之れに關係のある所の人を鞭撻する。斯う云ふことは之を認めない譯にはいれない。又其の指導意識を受け入れ、若くは受け入れないに致しましても、もう一つ考への中に入れて置かねばならぬことは産業組合に關し研究した所の人々の組合獎勵運動であると思ふのであります。故小松原中央會副會頭の如き故酒匂博士の如き、先に御話した所の柳田先生の如き、月田博士の如き、有働博士の如き、西垣博士の如き、惠君の如き帝國農會副會長の矢作博士の如き、三松本縣知事の如き、産業組合のことに付ては其の官にあるに民間に在るに拘らず産業組合發達の爲に努力するを以て一生の事業の一にする云ふ、其の確信は我國の産業組合の上に現はれた所のあることを憶ひ起さずには居られぬ。

所が斯う云ふやうな指導意識、或は學者方面に於ける研究指導が産業組合の發達の上にさうして重要關係があるか、産業組合それ自らの立場は自助自給にあるからである。制度其のものに付ての説明を聞いた後に於ては之を其の地方の事情に應ずるやうに組立をして、さうして之を地方々々の状態に當て嵌めて發達させることの出来る性質を持つて居るのであります。此の點は産業組合の特色であるのでありますから、外の技術のやうなものとは違ふ。傳授せられたものは違ふ。

産業組合に熟練の經驗を持つた人だけが、組合事業を實行することが出来、又其の感化を受入れ得ることはなくして、其の制度に關する所の關係を明瞭ならしめるならば何時でも之を地方に植付けする事が出来植え付かつたならば生える力のあるのは産業組合であるのでありますから、指導意識や先達の指導が産業組合制度の發達の上に關係があるのであります。のみならず茲に見逃かすことの出来ないのは、故加納子爵の生きた教訓であります。子爵は明治三十八年五月十日から三日間主催者となつて全國の産業組合大會を開かれたのであります。會期中丁度日本海々戰大勝の號外をしたのであります。當時のことはありあり記憶に残つて居るのであります。子爵は御承知の通りに實踐窮行の人であつたのであります。自ら入新井村に信用組合を起して、組合長となり、令夫人を補助役とし、令息令嬢を手傳人として、事業上に經驗を積み、其の經驗は之を書冊に著し、面會を求むる人があるに懇々として産業組合の實績を説きながら十分の指導をせられたのであります。子爵が其の道に熱心であつた云ふことは次の一例でも解ると思ひます。多分明治四十二年であつたと思ひますが、産業組合の大會が農商務省會議室に於て開かれました際に、丁度第二次桂内閣の時でありましたが、桂總理大臣が其の大會に列席せられた。其の臨席せられた機會を以て産業組合の状況を總理大臣の耳に入れた方が宜からう云ふので、子爵が實驗談をせらるゝことになつた。臨席の時間は短い云ふ豫定でありましたが一人の實驗談を十分間を限つたやうに記憶します。其の際に加納子爵は立つて云はれるには、私は東京府産業組合聯合會、入新井村の信用組合、上總一の宮町信用組合を代表するものであるから少くも三十分述べる資格があるにて、入新井村信用組合經營の實驗談、一の宮組合の實驗談から産業組合中央金庫設立の必要まで三十分よりは遙かに長い間演説せられまして、桂公をして席を立つことの出来ない程の熱心を持つて居られたのであります。此の熱心は決して人の種類に依つて違つた譯ではない。組合の人が來ても、組合員でない人が來ても、農業者が來ても、商業者が來ても、實際の經驗の上から産業組合の實物教訓を與へられたことの感化の多かつたことは吾々の到底忘るゝことの出来ない一であります。

我國の産業組合は先御話したやうに組合法が出来ましてからは官廳の力に待つことがなかなかあつたのであります。又官廳に居つた人の頭から出た所のものもあつたのであります。併しながら必ずしもそれだけではなかつた云ふことは今御話した通りであります。更に産業組合の發達の跡を考へる上に於てさうしても申上げて置かなければならぬことは此の間亡くなられました平田伯爵のことであります。唯それだけ申上げましたならば是で私は澤山であると思ふのであります。産業組合のこゝに付きては初めから、産業組合誕生の時から育てる迄の間に於て産業組合の發達を常に念頭に置かれたのであります。嘗て内務大臣になられた時に、産業組合中央會の會頭を兼ねない方が宜しいではないか云ふ問題が起つたのであります。所が伯爵は、若し異論が起つたならば大臣を罷めて中央會の會頭に止まつて居らう云ふはれたのであります。勿論さう云ふことは實現するかしないか解りませぬが、さう云ふ疑問を以つた人に對しては明瞭に産業組合の發達を計る上に付ては大臣になつたから止めるなん云ふことはしない。組合の健全な發達を圖ることは自分の一生の仕事であること考へられたのであります。昨日會頭の御話にもありましたやうに御用濟の上は餘生を産業組合の發達の爲に盡さうといはれて居たのである。從來故伯爵は時間も努力も惜まれず。地方巡回の一切の費用を自辨せられた上に中央會の基本金を第一に造られたなご申すことは今更私が御話しませぬでも十分に御承知のことではありますが、一生の事業として産業組合の發達を圖らうといふ其の精神が我國の産業組合の發達の上に重要な關係を持ち來たして居ると思ふのであります。産業組合の率先者は大抵さう云ふものであります。伊太利のルヅアチにしても同じであります。氏は總理大臣にもなり、大藏大臣にもなつた人でありましたが、併しながら産業組合の第一人者である云ふことは其の總理大臣よりも、同氏をして、偉大ならしめたものがあると思ふのであります。ライファイアンゼンにしても、シユルツチエにしても、其他何れの指導者に於きましても官廳に在つたさか野に在るさか野云ふことは重要なことではない、其の人一生の事業として國民生活の安定を圖り國家の根底を培かふ云ふ信念が組合發達の原動力であります。此の信念こそ即ち指導意識である。産業組合の上か

ら見ますと、其の意識に動かされる所の人々の間に此の信念が結び付けられ、培養せられ、さうして我國産業組合制度の上に或礎石が据付けられたと謂はねばなりません。茲に思ひ起さねばならぬことは品川平田の兩率先者の死に組合關係の重要事項の聯想であります。私は唯今中央會の事業として産業組合史の編纂の上に幾分力を添へて居るのであります。此處に持つて参りましたのは即ち二十五年の記念として出版する所の材料であります。此の材料の中を見ますと明治三十三年即ち二十五以前に於て産業組合法が成立したのであります。其の事項を書いた原稿には其の次に斯う書いてあります。

此の時品川子爵は京都の客舎に病を得、歸郷後二月二十六日を以て薨去せられ云々

是に平田伯爵が筆を加へられまして、

産業組合法は恰も此の日を以て通過を見たるも同氏は遂に之を知るに至らざりしは實に遺憾とする所なり

と書かれてあるのであります。産業組合法の生れた日は我國産業組合の父たる品川子爵が亡くなられた日であるのであります。亡くなつた爲に其の産業組合の法律の生れたことを知られなかつた譯であります。今回當地に於て組合法發布二十五周年の式典を擧ぐる場合に當りまして故品川子爵の郷里たる當縣に於て、産業組合大會始まつて以來の大盛況を呈したのであります。其の二十五周年の大會が行はるべし云ふことは故伯爵も御承知であつたのであります。此の盛況が前會頭の耳に達する暇なく亡くなられた云ふことは諸君と共に誠に遺憾とする次第であります。

以上我國の産業組合運動の回顧を致しましたのであります。産業組合卒先者の此の指導意識は我々は將來に對しましても之を考への中に入れて置かなければならぬと思ふ。考の内に入れて置くばかりではない。産業組合の制度が發達した所の其の経過から見ても解るやうに、勿論此の組合は時勢に應じ、國の發達の實情に應じまして色々變革を加へなければならぬことも起らうと思ひますけれども、併しなから此の産業組合の精神とする所は、我々は之を持續して、さうして其



の上に産業組合の理想を發現するところが何より大切なことであらうと思ふのであります。我々は現産業組合中央會會頭の下に三百萬組合員と共に産業組合の精神に従つて今日迄出来上つたの根底の上に更に一段の努力を加へる所がなければならぬと思ふのであります。此の努力に依つて今日迄導かれて來て居る所の其の意識、其の考へを更に擴充する所がなければならぬと思ふのであります。私は二十五年の過去の事實に付て申上げましたことは甚だ十分でないと思ふのであります。唯今日に至ります迄の間に於ける我國の組合運動がこんなものであつたと思ふことに付て聊か其の一端を申上げて御參考に供した次第であります。

## 次の二十五年

前貴族院書記官長  
法 學 士 柳 田 國 男

今から二十五年前の七月産業組合法が實施せられたばかりの頃に、私は始めて農務局の役人に爲つて、今の山口縣の三松知事などの指導の下に、其事務に携はりました。産業組合は最初から他の社會諸施設には見られぬほどの、著しい成長力をもつて居りました。さうして又無數の未解決の小問題をもつて居りました。それを講究し又當事者に説明するのが我々の役でありまして、實はまだ十分に分らぬ辭に、折々講話にあるいたり、又小さな本なども書きました。それが私の産業組合に對する因縁であり、又この度の二十五週年の記念會に、大なる喜びを以て参列した理由であります。

但し私は其後色々の事情がありました、永く産業組合の運動に参加して居ることが出来ませんでした。我々の哀悼して止まざる平田伯を始として多くの有力なる後援者、殊には初期以來此實務に携はつて、引續いて辛勞をなされた各地方の諸君に比べて、自分の熱心の忠實の足らなかつたことを、今更面目無くおmoi、従つて組合今日の隆盛にそれ／＼貢獻なされて、國全體からの感謝を御受けになる諸君の御満足、美しいと思ふのは申す迄もありません。が併し之と同時に、尙考へまするに、今回の記念會は普通精勵なる事務家の、勤続二十五年の祝賀會とは、よほど性質のちがひのあるものと云ふことです。勤続二十五年の表彰式の方では、多くの場合老いて正に隱退する人に向つて、長々御苦勞であつたと思ふ、一種のいさま乞ひ、送別の如きものです。産業組合の制度は之と反對に、此から大に働くもの、成年式、或は其の永い生存から比較して見れば寧ろ著者か官詣り位のところであります。個人が組合の爲に働くのは、どんな達者な

者でも大抵二十五年位が止りですから、我々の側から申せば、第一回の二十五年間、一生懸命に此事業に儘した人々が愈々之を第二回の二十五年間に働く人々へ、めい／＼の熱情と祝福を添へて、組合の精神を引継ぐべき機会と申してよいのであります。断じて懷舊談を以て日を暮すやうな、悠長な場合には無いのであります。

と謂ふべき理由は、我が産業組合に於ては、過ぎたる二十五年に既に創業時代の難關を通り越し、此からは唯守成維持の天下太平期に入つて行くのでは無いからであります。最近十年の目ざましい進歩は、既に會頭からも説明があつて、こんな愉快な數字は今の日本に於ては確かに異數であることを、感じない者は無いのであるが、しかも此以上幾年も引つゞいて、同じ速度が保たれて行くかどうかは、先づ第一に最も同情ある人々が之を疑はねばならぬ。しかも當初日本に、組合制を必要ならしめた事由は、まだ一つとして我々の力を以て片付けてしまつて居らぬのみならず、社會不安である農村の衰頹である、遊食空論の徒の不平不満である。此等の現象は寧ろ日を追うて増加するらしいことは、或は事實では無いかも知れぬが、少くとも多數が之を信ぜんとして居る。此際に當つての組合の大會である。國內の篤志家が此ほど澤山に集合せなれる好機會を利用して、一度も此點を考へて見ることも無く、唯歡娛の交換のみを以て別れてしまつては、必ず後世の人が笑ふであらうと思ふ。

産業組合が公の機關であるか、又は私益の結合體であるかは、實は根本原則の問題であつて、決して書生の屁理屈なかつたのであるが、久しい間「それはどちらでもよいでは無いか」を棄て置かれてあります。私たちの考では、今日の如く朝野の御歴々が、必ずしも個人としての便宜利益からで無く、斯うして組合制度の爲に盡力し、其隆盛を心の底から悦ばれて居る事實が、夙に直接に此問題に答へて居るので、法令乃至行政上の取扱が、たゞ／＼會社や營利組合と似て居るのは單に外形の一致といふに過ぎぬものと思つて居るが、此眞精神は果して大川の水の流の如く、年を追うて次第に地方の端々に迄も成長していつて居るかどうか。箇人主義の名を以て尤もらしく装はれて居る。私慾手前勝手が、時としては

其團結の力を以て、一層同胞國民内の分立排擠を便ならしめ、所謂集合的利己心が、一部の小弱者を威壓して居る懸念は無い。さうして無いと云ふことを最も明白に確めた上で無いと、誠に御同前が組合の爲め働くべき腹が据はりかねます。そこで少しく日本の組合の歴史を考へて見る必要があるが、二十五年前の産業組合法制定は、今から回顧すると實は近世經濟史上の一の轉回期であつた。明治初年からの西洋技術の輸入は、此時分までの二十何年に、非常に我邦の生産を豊富にし、所謂勸業の行政は大部分其の目ざましい効果を奏した。それにも拘らず國民の多數はいつになつても貧困であり従つて勇氣と智識が具はらぬ。維新前に比べて更に貧しくはならぬが、少なくとも外に羨むべきものが多くなり、自分を不運だに感ずること烈しくなつた。然らば生産増進の一方、國產總高輸出總高の増加のみで、國民の幸福をトすることが出来ぬが、個々の人を目安にした經濟の改良をせねばならぬとなつて、先づ實業教育と共に農村金融方法の改良が企てられた。勸業銀行農工銀行の二つのみでは、まだ下々の小生産者に及ばぬ虞があるので、産業組合は先づ信用組合から始まりさうして平田伯などか大に働かれたのであります。農務局では多くの尊敬すべきかくれた協力者もあつたが、殊にも久しい前に亡くなつた酒匂常明博士などが、えらい努力をせられた。中央會が設けられてからの平田小松原二老の骨折も莫大なものであつた。此諸先輩の實現力とも名づくべきものから、たしかに非凡であつた。しかも斯ういふ老成人の世故經驗に養はれた實際的計畫、徐々に積上げて大きくしようといふ方の仕事は著々成功したにも拘らず、他の一方の夢想派として申すべきか、いつ完成するかも當ての無い遠い未來の黄金世界を胸に書き、その想像上の大愉悅を目標として、宗教的の一致を以て其途を歩まうといふ方の若い者は、實は一向に振いませんでした。此は産業組合には限らず、あらゆる公の事業の通じての近代日本の一つの小さい缺點ですが、地方の組合を見ても、此ほど結構な事業ならば、何故に愛する國民全體に向つて、其悦びを分たないで居られるか疑ふやうな青年が概して稀でありました。そこで自分なども何度と無く先輩より空想家と目せられることを恐れつゝ心中窃かに、この物質本位の組合の將來の爲に患ひ、同時に又報徳社や感恩

講などの方法には缺點がありながら、尙どこかに人を感激せしむる精神を具へて居らしたる團體を欽慕し時としては法律の與へた一切の便宜恩典を抛棄しても、尙獨立を保たうとした別個の運動に同情を惜まざると同時に、何とかして産業組合も外部から實利一點帳の結合體の如く悪評せなれないやうにして見たいと思つて焦慮しました。

日本には今以て外國の制度を物質萬能のものやうに輕蔑する氣風があるが、しかも産業組合はたしかに日本だけが、其精神に於て外國のものにおくれて居るやうに感じました。此は我國の欽定憲法の運用に就ては、折々起る所の感じてすが、寧ろ此の國民が幸福であつて、惱みぬき苦しみぬき、せつば詰まつて自發的に斯んな組織を考へ出す前に、ちやんと指導者があつて前車の轍に鑑み、早くから瞻立てをして我々の前に据へられる。従つて受身の氣樂さを以て之を味ふから、時として之に携はりつゝ尙よそ心である。産業組合は法律で何と書いてあらうとも、之を要するに貧國撲滅運動である。肺病撲滅運動が國內に結核患者を無くしてしまはねば、如何に多くの既設が陳列せられても、尙成功と言はれぬやうに、今のやうに苦しいといふ人が、村にも町にもうなつてゐては、まだ決してやれ御苦勞やと祝杯を擧げ得ないのは當然である。見やうによつては此でも丸で無かつた場合の滲透さを考へれば、こゝで喰止めただけでも成功だと云ふ風に樂觀も勿論成立つが、少なくとも仕事のまだ今日、半分までも抄取つて居らぬこゝ、従つて二十五週年の大會が鉢巻の締めなほし、捻ぢなほしであるこゝ、何人も認めなければならぬ。

こゝが正しく産業組合の普及が、新しい社會運動であるか、はた又一種の畏るべき有力なる集合的利己主義であるかの分れ目であります。現在の組合數一萬四十、市町村の數より少し多い。組合の無い町村は既に少なくなりました。ただ組合員の三百萬人、これが前の代の衆議院議員選舉法による選舉有権者數と、偶然ながらも略同數であるのは、甚だしく氣になります。其残りの千萬人ばかりの世帯主又は獨立生計者の現在組合に對する態度はどんな風であらうか。最近の事情には私はうといか、此評も當らぬかも知れませぬが、前年各地方の村に入つて、林や畑で働いて居るもの、組合の

話をして見た時に、往々にして彼等の口から聞いたのは、信用組合ですか、あれは村のよい衆が色んな相談をしてやつて居られるものでとか、私の村にもあるが、あれは羽織を着るやうな人の仕事ですとか、冷淡の話が至つて多かつた。しかも小さくして獨立孤行の不利だ甚だしく、協力によりて僅かに困窮から免かれる必要は、申す迄も無く此人々の方が多いのです。消防でも水害防止でも、害虫驅除でも、夫役に出ねばならぬ人々が、それより一層緊急なる貧害の防止驅除には外に置かれて居る。さうで無くても村の共同生活は、二つか三つに割れたがる。しかも如何なる小さな人でも分に應じ、其努力の一部分を公の生活に充てねばならぬ時代が來て、公民教育を普通教育にする必要が目前に在り、此だけ各地方の實情に合し、私經濟を共同生存と繩に縋ひて、一箇不可分のものにするのは此より適切な方法は無いのに、組合の恩惠功果を彼等に理解せしめる爲に、外國から來て居る宣教師だけの骨折をも試みないのは、親切の缺乏といふよりも寧ろ一般的に、組合の本質に關する意識が足らず、願以斯功德普及於一切の信仰が足らず、又組合の生命の源泉を框んで見る心持が足らぬからかと思ひます。

人が國內に多くなれば、今までの社會組織に於ては鬪ふの外は無かつたのです。弱くて負ける者から整理して、丈夫なるものだけの國にするこゝ、恰も獅子が千仞の谷に子獅子を試したやうなのが、今までの所謂生存競争でありました。世が太平で眞秘の戦がなくなるこゝ、其代りが生馬の眼をぬくといひ、人を見たら泥棒と思ふやうに、人がこすくなつて相手の損で自分が仕合せをするのです。此の國民の一致に有害で無からう道理がありません。貧乏は其身の不運、あきらめて憐憫施しても受けるやうにせよと言ふのは、最も徹底した西洋などの理論で、實際彼等には親だけ乞食をして居るのもあるやうです。日本はまだそこ迄は行かず、元々通りに親族同郷の者が介抱するから、貧窮の悲惨は外に現はれる前に、先づ仲間弱はらせませんが、つまりは劣敗者の敗亡は免れなかつたのです。即ち不義理を評せられ、横着冷酷言はれるものが次第に勝ちました。是は見て居られぬ力づくが眞理ならば、外のは強國の横暴も制せられず、内には所謂無法者の反抗も

論すべき根據がありません。この久しい成行を改良する事業が、平凡微温的であり得ないのは當然で、即ち産業組合は從來の如く、貧窮を個人の問題とせず、社會共同の害敵として、之に對して戦を宣したのであります。人々人とを戦はせまいとして、共同の敵を指示したのであります。萬一にも産業組合が大に隆盛して、之が爲に同胞のある者が更に不幸に陥り、乃至は今よりも一層怨み憤り警戒し反抗して来るやうになつたのでは、それは名けて眞の組合の繁榮と謂ふべきものでなく、況や之を以て事業の完成したるとは、謂はれようわけがありません。

ところが實際の實況としてはどうであるか。産業組合には貧困以外の敵がある。日本の國內で、あまり組合などは繁榮してくれぬ方がよい。たまには役員に悪者などが現れて、使ひ込みそして仲間を迷惑させ、それ見たこゝかと謂はせてくれる方がよろしい。ミ禱つて居るらしく感じられるのはこれはどうしたわけか、其中でも販賣組合を憎く思ふ田舎まはりの仲買、購買組合を目的の仇にする小賣商店は、其大多數が自身も亦、救済を必要とする小民である爲に、果して此相撲にいつも團扇を組合に掲げるのが、悦ばしいとか否かをさへも疑はせます。しかも一方は孤立の私經濟を、久しい慣例に従つて經營して居る人ですから、若し此難問題を解決すべければ、解決の責任は常に組合側の深く考へ遠く慮る人々に屬するのであります。日本は決して大昔からの小商人の國では無かつた。それが人口が増して來れば、手近には他に職業が無い。其上に地理的關係其他から分配機關が不完全でまだ此人々の働く餘地、即ち多分の利潤が此方面に在つた。そこで水の低きに就くやうに、僅かの時間に急に増加し又現に増加しつゝあるのです。販賣も亦價值の生産の一つですが、あらゆる生産が手數經費を省くを利とするやうに、略し得れば略したゞけよいので、一國から見ても個人から考へても、生産者も消費者もは接近するだけ好都合であることは、最早疑ふ者は一人もありません。しかもそれを爲し遂げるのは獨り産業組合あるのみで、それがあへこべに當節次第に増して居るやうでは、冷淡なる批評家は組合の功績を疑ひます。第二の二十五年はこんな難事業を我々から引繼ぐべきものであります。寧ろ氣の毒御苦勞なる二十五年であります。其上に斯うして

無用になつて行く筈の多數の仲間商人の失業はどうするか、是も産業組合の本來の趣旨から謂つて、我々の管轄すべき事項であります。日本の社會問題の中の、最も重要且つ困難な一つは、斯うして解決を我々に迫ります。獨り小商人のみは謂はず、所謂新農業の方法を採用して、勞力を節約すれば、耕地の俄然として増さぬ限、一半の耕作者も不用になる、自作農を創成すれば地主の一部分も手があく。其他のあらゆる生産改善、經費の節約は悉く此大規模の失業問題に歸します。失業をして末が貧窮になるのは當然すぎた當然である。然らばこの餘つた人はどうするか、勿論何になりとも働かねばならぬ。而して其働く仕事の結果果してあるか。空中にも海中にも我々生産原料は勿論まだ開かれずに残つて居るが、とにかく何物かを他の國の人の勞力に仰ぐとすれば、之に對して輸出がなければならぬ。勞力をなまのまゝで輸出してもよいが、此販路も御承知の如く制限せられて居る。國內の新生産を國內限で消費する以上は、市價は相對的のもので、皆高いのも皆低いのも同じであるが、經濟上の理由の返しなる國際間の貿易には、生産費の高いことは大なる障礙である。今も現に人の手が是ほどあまりながら、支那から傘を米國から小楊枝を獨逸から下駄の臺まで入れて居るのは、そも／＼何の原因であるか。勞力の餘分をどう利用すべきかを少しも考へずに、一般に下がる苦みを一時のがれたい爲のみに、農産物でも工産物でも互に高く維持したがる人ばかりが多い結果である。産業組合に携はる人だけでも、せめて今少しく深く考へて見ねばなりません。個人が目前の生活苦に離脱して、知りつゝも迷ふのは是非無いことですが、之を全體の爲に於て考へる爲に、もう我れは久しい前から聯合會を作り、又中央の諸機關を作つた。我邦の經濟諸制度の中で、此ほど系統的組織的に、村から國の中央まで、例へば手足の神經中樞に於けるが如く、一體としての大行動を起し得るものは無いのです。國との争闘怨恨にも、根底には經濟の問題が横はるとすれば、之を見出し改革するのも又此方に依るの他は無いので、組合の理想には即ち民族の一如があるのです。獨り我同胞の爲には謂はず、熱帯の烈日の下に息つく者、北極の萬年雪の中に潜み飢えて居るものも、同じ法則を押しひろめて、我々はやがていさ容易に、彼等の貧困をも憫れんで、之を

撲滅し得る時期を見得ると思ふ。これは或は夢の如き空想ではあるが、我々の國民性は世界の何れの國民よりも之を夢想するに適して居る。假に現世の煩惱に由つて、この精神の光を譽されてしまふならば、如何に組合の繁榮が悦しいものであつても尙我々は一部の弱者の爲に、修羅道の淺ましさを嘆かねばならぬのであります。

## 閉會の辭

産業組合中央會頭 志村源太郎

二十五周年記念講演會に於きましては本日佐藤博士の過去二十五年の産業組合運動の回顧談に依りまして我が産業組合なるものは明治二十七八年の戦役又は日露戦役の如き國民總動員の必要があり、又戦後の大變亂に處する所の國民全體の善後の爲に起つた所の運動であつて、此の爲には有力なる先輩諸氏、又數々の名士が此の間に活躍せられて今日迄に至つた状況を述べられて、而して斯様な國民總動員、國民全體の經濟の變に處する所の必要なる組織でありますから今後の社會の變動に對し、今後の國民全體の必要に對しまして産業組合の益々必要にして、又益々發達する必要とする所に應じて變化改良改善の必要なることは言外に現はれたる歴史上から確められた結論と思はれるのであります。柳田法學士は又此の産業組合法の制定、其の後の發達に付て御關係になりました經驗上から今後の二十五年、次の二十五年間に於て更にもつと大なる理想を以て、唯現實の實利主義に囚はれず、僅ばかりの利を遂ふとか、又少數の組合員の利益を計るを以て満足せず更に進んで一層の包容力を進め、三百萬の組合員は或は五百萬にも千萬にも及ぶと云ふやうな大なる擴張を計り、更に進んでは所謂人類の安寧幸福の爲全世界に之を普及して行くに云ふだけの抱負を以て行きたいと云ふ大なる御期待を我々は聽いた次第であります。勿論産業組合の仕組と云ふものは全世界に亘つた所の民衆の運動でありまして、唯我國の制度、我國一つに止まるべきものではないのであります。段々に此の産業組合の、例へば信用事業が擴がつて参りましたれば世界的金融と交渉を持つのであります。又購買組合が發達いたし、全購聯が大なる活動を致す時になりましたなら

ば其の全購聯は或は自ら自己生産をするが爲に外國に於て農園を持ち、或は外國に於て製造所を持つ云ふやうな必要が出て来るかも知れない。現に昨日の講演にもあつたやうに、英吉利の購買組合云ふものは全世界の各地に於て、例へば加奈陀に於て麥畑を持ち、印度に於て茶園を持ち、其他の所に於て製造所を持つ云ふやうに、全世界に亘つて活動するのであります。我國の産業組合も全購聯其他の購買組合の發達の次第に依りましては追々世界的交渉を持つて来るものと思ふのであります。又共同販賣が進んで参りましたならば是は勿論世界の市場に向つて我國の品物を共同販賣をする位になつて来るだらうと思ふのであります。斯の如く産業組合運動が段々發達いたしますれば即ち全世界の事を共にするのであります。又全世界を相手として仕事をすべきものであらうと思ふのであります。即ち産業組合の働きは全世界に向て普及すべきものであります。斯様な前途のあります産業組合でありまして、而して那須農學博士の云はれました通り現在差向きの所、今後普通選舉が行はれまする日本に致しまして、此の産業組合の趣旨なるものは一面には所謂資本主義が既に外國に於ては非常に一時發達して、最後に最近に至つて追々と其の缺點を曝露して参りました。日本に於てはまた十分なる發達は致しませぬが、併し前車の覆る、相當の警戒を加へなければならぬ所の資本制度であります。一面に於て資本制度、一面に於ては社會主義、此社會主義の過激なものに至つて最も恐るべき結果を來たす。此二つの間に立ちまして、頑固固陋なる資本主義と、最も極端なる社會主義との間に立ちまして所謂産業組合主義なるものを以て、現在の制度の上に立脚して、所謂私有財産の上に立脚して漸々に、穩和的に、秩序的に、徐々に改善をして行かう云ふ所の産業組合主義なるものは最も適當なるものである云ふことは那須博士の言葉を極めて云はれたことであります。又三輪農學士は現在從事せられる中央金庫の立場から致しまして、産業組合の金融上の點より産業組合の大に努めなければならぬ、現狀を以て満足せず、其の金融上の聯絡を探り又組合が金融上に於て組合を成るべく利用しなければならぬ。組合は又聯合會を成るべく利用しなければならぬ。聯合會は中央金庫を成るべく利用して出来るだけ御互

の融通を計ると云ふことが即ち産業組合全體の組織の發達を促す所以である云ふことを最も熱心に述べられたのであります。之を要するに此度の御講演は我々に最も教へる所多く、皆務する所我國の産業組合云ふものは今日迄得ました所の二十五年の基礎を土臺として更に次の二十五年に於ては最も有意義の發達をしなければならぬ必要があり又其の任務があると云ふことは皆様の御言葉に含まれて居るに存するのであります。我々は諸氏の御講演に對し、次の二十五年に於てきまして出来るだけの成績を挙げまして、更に次の二十五年に於て又其間の成績を回顧する樂しみを得たいと思ふのであります。茲に二十五年記念講演會を終るに對しまして諸君の御講聽を感謝し並に講演家の我々に多大の教訓を賜はりましたことを茲に感謝いたしまして講演會を閉づる次第であります。

284  
510

版權  
所有

大正十四年六月二十日印刷  
大正十四年七月一日發行

(定價二十錢)

編輯兼  
發行人  
千石興太郎

印刷人  
犬塚茂三郎

印刷所  
株式會社  
中屋印刷所  
東京市京橋區築地三ノ十五

發行所  
產業組合中央會

東京市牛込區揚場町二十一番地  
振替口座東京四七二四番

終

